

大学における外国語のための 自学自習支援システムの調査研究

—香川大学教育改善に関する調査の一環として—

永尾 智*
瀧川 一幸**

目 次

はじめに

- (1) 外国語教育の置かれている現状と問題点
 - (2) 二つのアンケートの調査と基礎的なまとめ
 - 2-1-A 「外国語教育用施設の利用に関するアンケート」の項目内容
 - 2-1-B アンケートの回答
 - 2-1-C アンケートの基礎的なまとめ
 - 2-2-A 学生に対する「英語資格試験等に関するアンケート」の項目内容
 - 2-2-B アンケートの回答
 - 2-2-C アンケートの基礎的なまとめ
 - (3) アンケート結果の検討
 - 3-1 外国語教育施設の利用状況に関するアンケート
 - 3-1-1 大学規模の整理
 - 3-1-2 国立大学での状況（外国語センター運営が有効）
 - 3-1-3 私立大学での状況（外国語センター運営が第1条件ではない）
 - 3-1-4 自習室運営の第1条件
 - 3-1-5 自学自習支援体制のもう一つの条件
 - 3-2 学生アンケート
 - 3-2-1 自己診断と学習意欲
 - 3-2-2 学習の意義
 - 3-2-3 学習意欲と自習室認知度
 - 3-2-4 自習室認知度と使用度
 - 3-2-5 学習意欲と資格試験受験経験
 - 3-2-6 資格試験教材を入れたら自習室を利用するか
 - 3-2-7 対策授業受講意欲
 - (4) 英語教育の改善に向けて —学生の意欲と大学の役目—
- 参考資料Ⅰ. データ類「外国語教育用施設の利用に関するアンケート」のデータ
「英語資格試験等に関するアンケート」のデータ
- 参考資料Ⅱ. 英語教育最近四半世紀の動向（竹中氏の提供）

* 講師 教育学部（発達臨床）

** 教授 経済学部（社会と文化）

はじめに

香川大学は教養教育を平成7年度から全学出動体制に改め、授業編成を行ってきたが、この体制は当初4年間続けて、見直すことが最初から予定されていた。こうして平成10年度から教養教育の見直しを行い、平成11年度から新しいシステムで授業が行われている。しかし外国語教育に関しては、特に英語教育に関しては、全学の必修科目で、授業数が非常に多いこともあって、改革は2年越しになり、ようやく改革案がまとまり、平成12年度から実施の運びになっている。この調査研究は、こうした中で大学の外国語教育の改善につながる研究調査として始まった。私達、永尾と瀧川は、現在の外国語をめぐる内外の情勢を考慮し、現状を調査して外国語教育の改善につながるテーマとして、「外国語自学自習支援システム」を選ぶことにした。それは授業の実際のシステム改革は、別の委員会が行い、上記に記したように全学での検討の結果、実施の運びになっているからである。そして私たちは外国語授業を側面から支援し、学生の自学自習を重視する必要があると判断したからである。

周知のごとく、外国語の修得は、講義系の授業のように、知識伝達に重点が置かれているものと違い、外国語の知識を得るだけでは不十分で、その上に外国語の運用力を養わないと真の意味で力がつくとは認められない。したがって、外国語教育においては授業だけでは十分な外国語運用力はつけない。特に昨今問題となっているコミュニケーション能力を問題にした場合、授業だけで外国語運用能力を養成するのは全く不十分である。テープ、ビデオ教材・CALL教材など、「聞く」、「話す」の能力を養う教材などを使った自習としての補助訓練が必須である。香川大学の教養教育では、従来から外国語のこの面を重要視してきている。つまり学生に外国語授業を受けさせるだけでなく、自分で外国語を勉強したい場合、LLを外国語授業の中で機器を使える演習室として使用するばかりでなく、広く学生に開放して学生の語学自習にも使えるようにしてきている。その意味で、LLを「外国語自習室」と呼び、そのように位置づけてきている。このために私たちは、外国語自習室に補助員（アシスタント）を常置させて、いわば「外国語教材の図書館」のように学生が空いた時間を利用してここを訪れさえすれば、補助員が対応し、テープやビデオなどの教材を借り出し、LLとは独立した自習室のブースで自学自習できる体制をとってきた。また外国語教材は、高価でしかも年々更新が激しく、新しい教材が次々と売り出されて、英語を学びたい人の垂涎の的になっている。これらの教材は高価で、学生を金銭的に困らせているが、こうした面に対しても一定の予算を組み、既習外国語（英語）の教材ばかりでなく、初修外国語の教材も購入し、教材の充実と保管を行ってきた。他にこのLLは、平成10年度に全く新しく更新された機会を利用して、授業に使用する教室部分とは独立して、10ブースと数は少ないが、学内のLANに接続し、コンピューターを入れて、今後外国語教材の主流に成長することが見込まれるCALL方式の教材にも対応でき、また理系学生の人気が高いWWWなどにアクセスでき、世界への窓口になれるように工夫している。

また、1999年3月に文部省は通達を出し、英検など、これまで文部省が認定してきた検定だけに単位認定を許してきたが、今後は、TOEFL、TOEICなど社会的な認知がある検定であれば、それを認定してもよいと検定試験に対する方針を変更した。TOEFLの国際比較は1999年に大きな社会的スポットを浴びたが、それに象徴されるように、現在、こうした諸検定は注目を浴びており、就職時の資格との関連で学生たちの関心の的になってきている。こうした中で大学は、今後、TOEFL、TOEICなどの検定結果を単位認定することは、一つの大きな検討課題になろうとしている。

さて、私たちは上記のような意義と現状を認識しながら、外国語教育の自学自習の側面にスポット

を当て、今後の果たしてゆくべき役割を意識しながら、「大学の外国語教育における自学自習システムのあり方」を探ってみようと考えた。そしてこうした諸問題を（１）外国語教育の置かれている現状と問題点、（２）二つのアンケートの調査と基礎的なまとめ、（３）アンケート結果の検討（４）英語教育の改善に向けてと項目を立てて、調査研究することにした。このため、まず（１）外国語教育の現在の置かれている現状と問題点を整理して、（２）のために自学自習支援システムの二つの主体、大学と学生の双方にアンケートを行った。すなわち、全国の国立大学と私立大学の一部にアンケート調査を行い、全国の大学で外国語の自学自習体制がどうなっているのか、その現状と検定試験に対してどういう対応をしているのかを調査した。また香川大学の一部学生にアンケートし、外国語の自学自習システムや検定試験に対する意識を探ってみた。これらを踏まえて、（４）英語教育の改善に向けてまとめてみた。

（１）外国語教育の置かれている現状と問題点

1999年は、外国語教育にとって、と言うより英語教育にとって、社会に非常に大きな話題を提供した年であった。しかもこのことは、日本人はみなよく知っており、できれば隠しておきたかったことなのだが、遺憾なことに、それが極めて明瞭な形で世界中に知らされたと言うことであろう。それは、TOEFLのアジア諸国の国際比較で日本人の受験者の平均点が北朝鮮と並んで最下位になったことである。日本人はオリンピックなどを見れば分かりますとおり、非常に国際社会でのランクにこだわる性癖がある。そして日ごろ経済大国と言われて陰ながら自負心をくすぐられている日本人の自己意識に、この最下位と言う汚名が浴びせられたのである。これはかなり応えたと言える。しかし、この報道のこうした表面的な意義もあるが、この最下位の意味は筆者にはもっと大きな意味があると考えられる。だからこそ、これほどまでマスメディアに大きく取り上げられたのである。

現在、世界は極めて大きな変革期にある。第3次産業革命とすら言えるコンピューターに象徴される人間による管理力が飛躍的に強化され、政治、経済、社会、文化面ばかりでなく、社会のもっと広い範囲の中の、生産、管理、交通、購買システムなど、ほとんど生活のあらゆる面で、管理とスピードが前代未聞であるほど強化された。他方、世界の中で米ソの2大大国の冷戦構造が崩壊し、アメリカ1極支配と言う世界政治の中で、グローバル化が進み、特に経済面では、国境がほぼ無くなり、競争が激化している。日本では、もはや国際社会の中でしか生きてゆけず、明治維新以来の日本の国是であった「貿易立国」という立場から見て、国内スタンダードが国際スタンダードへと変革されることが求められている。

そのような意味で、ちょうどコンピューターのOSが全く新しくバージョンアップされる場合のように、日本の社会のスタンダードが大幅なバージョンアップの時期を迎えていると言ってよい。このアспектの中で日本人の英語力が問題となる。なぜなら、日本の国内では今まで英語が全く使えなくても、何の問題もなく、日本語だけでもほとんどすべてのことが済ませられてきたからである。しかし今後、政治面でも経済面でもまた広く文化面でもグローバル化が求められるとなると、もはや日本語だけで済ますと言うわけにはいかない。日本が国際社会の一員であると宣言する（すでにずっと昔に宣言している）ことは、言語面で英語が共通語として話される社会に入ることを意味するからである。特に国際社会へ入ると言うことは、国際社会の情報を入れるだけでは済まず、積極的に発言し、参加してゆかなければならない。これはすでに多くの面で表面化している。国際社会と日本社会の接点では、すべての分野で起こっている。政治的分野にも、経済的分野にも、学問的分野にも、絶えず、国

国際社会との相互情報交換が必要になっている。そしてそこでは日本語と英語の相互表現が行われる。例えば、理系の学問分野ではかなり昔から新しい情報はほとんど英語で入ってくるし、英語で発信しなければならない。また今はやりのインターネットで WWW を開いても、魅力あるアメリカの情報など、多くは英語の世界である。もっと身近な例でいえば、経済情勢は、世界の情報が無ければ判断が出来ないだろう。ニュースで円相場やニューヨークの株式相場が絶えず放送されているのが、それを象徴している。あるいは、日本の経済では、いままで企業のライバルは、日本の同業の企業だけを考えていればよかったのが、国内も国外も同業のエクセレント企業がライバルとして登場してきている。国際社会の中で商売をしていこうとすれば、前提として英語による国際情報と英語による商売力が問題になる。こうした現代の明瞭な英語の国際共通語としての意味合いが強まっている最中で、先の「日本人の英語力」がアジアの最下位であると白日の下にさらされたのである。日本語オンリーで通して来た日本がはたして国際社会の一員として十分活動できるのか。いわば、不吉な日本の未来をふと見せつけられた思いがしたからである。

なお付言しておくが、TOEFL の最新の結果については、2000年1月26日の朝日新聞の「日本人、やっぱり英語はニガテみたい…」によれば、右表に示されたとおり、日本は前年度のアジア諸国の国際比較で、北朝鮮と並んで最下位だった最悪の状況を脱したものの、下位から4番目になった結果を伝えている。しかし前回同様に最下位だった北朝鮮は、日本より上位に来ており、「最下位」という汚名は脱しえたとしても事態が決してよくなっていない状況は変わらない。

ただし国際比較と言っても、英語が公用語になっている国や、それと同じような扱いの国と比較しても意味がないし、また受験者数も大学での留学等明確な目的意識をもって受験している層が選抜されている国などと比較しても真の意味での比較にはなっていない。が、なんと言い訳しても、やはり日本人の英語苦手意識は、明確に世界に示された結果には相違がないであろう。

こうした背景の中で、1999年には近年に無いほど、「日本人の英語力」がマスメディアで取り上げられた。筆者が知っているだけでも、まず NHK がたぶん5回以上、この問題を取り上げた。BS 放送の中で、「20世紀への提言」と言う深夜番組としてシンポジウムが放映された。また NHK 教育放送は、3回ほどこの問題を取り上げ、いろいろな人の意見を放送した。また NHK の有名な現在社会問題を扱う番組、「クローズアップ現在」も1度だけだが、玉川大学長をゲストに呼び、「日本人の英語や英語教育」を取り上げた。新聞も朝日、読売、日経などの新聞が TOEFL の試験結果やそれに関連する問題を記事にしている。雑誌もいくつか取り上げた。また鈴木孝夫著「日本人はなぜ英語ができないか」(岩波新書)が日本の外国語担当の教師の間でひそかに愛読されている。恐らくこれほど「日本人の英

TOEFL のアジアの国・地域の平均点		
	受験者数	平均点
フィリピン	92	584
インド	30,658	583
スリランカ	57	571
中国	70,760	562
ネパール	71	560
インドネシア	87	545
パキスタン	6,274	542
マレーシア	218	536
韓国	61,667	535
ベトナム	531	530
香港	9,427	524
バングラデュー	3,885	515
ミャンマー	867	515
タイ	15,054	512
台湾	32,967	510
北朝鮮	336	510
マカオ	556	506
日本	100,453	501
アフガニスタン	153	493
カンボジア	102	488
ラオス	49	466

語」が問題にされた年は近年にはない。極めつけは、小渕首相の私的諮問機関が、英語第2公用語論を唱えたことであろうか。

こうしたことを背景に文部省も方針を大きく変えつつある。香川大学の竹中氏（英語教育）より提供していただいた「英語教育最近四半世紀の動向」（論文末参考資料参照）によれば、昭和52・53年の学習指導要領改訂、平成元年の学習指導要領改訂、平成10・11年の学習指導要領改訂と言う過去3回の改訂¹をみるとその方針変更が見えてくる。最初には『聞くこと、話すこと』、『読むこと』及び『書くこと』の言語活動が総合的に行われるような内容」と言っていたのが、2回目の改訂には初めて「コミュニケーション」という言葉が入ってくる。「読むこと及び書くこと」をおろそかにしないようにと但し書きをつけながらも、「コミュニケーション」の重視が打ち出され、国際理解が重要視されている。高等学校では、新しい科目として「オーラル・コミュニケーションA, B, C」が導入された。そして最近の改訂（98/91）では、例えば、「これからの国際社会に生きる日本人として、世界の人々と協議し、国際交流などを積極的に行っていくような資質・能力の基礎を養う観点から、外国語による実践的コミュニケーション能力の育成にかかわる指導を一層充実する。その際に、外国語の学習を通して、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度と、視野を広げ異文化を理解し尊重する態度の育成を図る。」と国際化の進展を意識し、「コミュニケーション」が前面に出てきている。「これからの国際社会に生きる日本人として」という表現は最近の国際社会の環境変化をすどく意識していて、象徴的である。また中学校の英語が初めて必修化され、高等学校では、「オーラル・コミュニケーションI」と「オーラル・コミュニケーションII」が導入されて、平成14年度から必修化される²。また大学に対しては、先に言ったように、今後は、TOEFL、TOEIC など社会的な認知がある検定であれば、それを認定してもよいと検定試験に対する方針を変更した。文部省は、このように英語教育の方針を変えながら、他方これを促進する政策を行っている。それは、JETプログラムである。詳細は論文末に付けた参考資料を読んでいただきたいが、1987年度から非常に多くの英語を母語とする外国人を招致し、全国の都道府県の教育界に送っている。また都道府県もこれに呼応して各国際交流課を通して、県内の外国語の普及に乗り出している。そしてごく最近、文部省は、小学校段階で「総合的な学習の時間」を創設し、これを使って英語を導入できるようにした。平成12年度の開始を前にして、それを実施する小学校では準備が大変で、その様子がテレビで放映されたことを覚えておられる人も少なくないであろう。

もう一つ外国語教育を取り巻く現状変化で書いておくべきことは、教材・機器の変化である。戦後長らく大学の語学教材は、外国の文学教材が多かった。しかし現在ではもはや主流をなしていないといえよう。コミュニケーションを重視したものや外国の文化や生活を紹介したものが多くなっている。また機器が非常に大きな進歩をした。語学教材にテープが付属することは通念化しているが、最近ではテープに変わり、CDが普及し始めている。そして現在は、CALL教材が非常な勢いで普及し始めている。これは、自動車と同じく、コンピューターを誰でも持つような時代に移りつつあり、しかもCPUの発達で高速化し、ほんに少し前にはコンピューターによる映像や音声は使い物にならなかった事態が最近ではテレビ映像に引けを取らなくなっているからである。おそらくごく近い未来には、コンピューターによる語学ソフトやCALLが主流になってゆくのではあるまいか。

1 学習指導要項は何度か改訂されている。ここに取り上げた改訂は、最近の過去3回の改訂である。

2 平成元年の高等学校の中にある「オーラル・コミュニケーションA, B, C」は、そのどれかを取りなさいという文部省の指導である。平成14年度から実施予定の最新の改訂の高等学校の場合は、「英語I」と「オーラル・コミュニケーションI」が必修である。

また社会の変化もある。文部省の JET プログラムや各県の国際化の派遣教員だけでなく、外国人は日本のどこにでも暮らしている状況になってきている。香川大学でも英語教育の非常勤講師は非常に多くの外国人の方をお願いをしている。学生も語学留学はまだまだ少ないが、海外旅行の方は気楽にするように変わってきた。また就職時の資格との関連や企業の英語力の強化意欲などで、TOEFL や TOEIC など、検定試験への関心も高まっている。

以上、外国語教育を取り巻く現状を整理してみた。それでは次に、外国語教育の問題点はどうかと問うと、こちらの方は非常に難しい問題が残っている。後で論じるが、外国語教育にはいろいろな問題があり、有名な英語教育論争である「平泉・渡辺論争」がいまでも問題の核心を突いており、解決されていないということからもそれは理解されよう。しかし問題の焦点は非常にはっきりしている。簡単に言えば、「日本は急激な国際化の進展にある現在、国際社会の中でしか生きてゆけない。そして国際社会では主として英語が共通語になっている。国際社会の一員であるためには、英語による受信・発信の両面で参加しなくてはならない。そのために英語の運用力をつけることは日本にとって必須のことになっている。しかしそれにもかかわらず、日本人の大半は英語がニガテで、簡単なコミュニケーションすら出来ない。」と言えるのではないだろうか。要するに「日本人の英語によるコミュニケーション能力の不足」が問題なのである。

しかしここには、様々な問題が潜んでいると思われるが、それを箇条書き的に挙げてみるとだいたい以下のように述べられよう。

- (1) 平泉・渡辺英語教育論争³が明らかにした問題は、現代でも本質的には変わっていない。いったい、日本では英語を潜在的に活用できるように学ぶべきか、最初から顕在的能力を問題にし、話す・聞くから始めてゆくべきなのか。また全員が学んでゆくべきか、一部の人に英語を実際に使えるように教育すべきなのか。まだ不明である。
- (2) ただ変化は見られる。教育の中に大幅にコミュニケーションが取り入れられている。英語の教材、機器が進歩し、非常に学びやすい環境が出来上がっている。また海外には気軽に、誰でも行けるようになった。「コミュニケーション」として英語を学ぶ環境は格段に進歩した。
- (3) 外国語教育、特に英語教育の問題は、相変わらずきわめて重要な哲学的な意味が含まれている。言語は文化そのものである。言語を変えれば、文化も変わる。日本人が日本語を使わないようになれば、日本文化はラテン語文化が死滅したように、死滅しよう。日本人は、[国内で] 外国語そのものを使って用を果たす方法を探らず、日本語の中へすべての異文化を取り入れてきた。この伝統がいまも続き、変わりそうも無い。だから言語をただ道具のように使えばよいとはなかなか割り切れない。鈴木孝夫氏が言うように、英語を道具と考え、教育方法を発信型に変えれば、あるいは日本人も英語を駆使して国際社会の一員として活躍できるかもしれない。しかしこれはまだ試案の段階で実行されていない。

また個人レベルで言えば、言語はその人を規定している。アイデンティティと深く結びつき、その人のアイデンティティの一部をなしているといえよう。文部省が平成12年度から英語を小学校へ導入する道を開くが、小学校段階で日本語の教育に支障が出ないように注意をしていると思える。それは人間一人一人の思考力、判断力、表現力は、言語の種類ではなく、母語の修得の深さと深く結

3 文春文庫「英語教育論争」にまとめられている。

びついている。だから多くの人も言うように、英会話さえ大学入試に取り入れればすべて片がつくというような話ではない。母語でものごとを深く理解し、論理的に話せる十分な表現力を修得していなければ、外国語を修得しても同じ結果になる。買い物など、日々の用事は出来るが、難しい話題は話せないという例はよく見受けられるからである。まず母語の深い修得が第1であり、外国語の修得は次の問題ではなかろうか。

- (4) 日本は、何度も述べたように現在、国際社会の中でしか生きていけない状況にある。したがって、昔、中国文化を移入したときのように、外国の状況が乱れたり、文化が衰退したりした時には鎖国をし、外国が豊かに発展したときには開国すると言った時代にはもはや帰れない。そういう意味では、英語は必須になっている。どの分野でも、日本語を外国語に、外国語を日本語に変換する必要が増大してきている。またこのことは、日本語を豊かにしてきたのだから、今後もおろそかには出来ない。
- (5) 日本では英語を日本語で教えている。これは世界的に見た場合、少数派である。特に「コミュニケーション」能力を考えた場合、英語を英語で教える状況には無い。また英語の運用力を中心にして学ぶ場合、授業外で、つまり教室の外に英語を実際に使える状況が是非とも必要であるが、現在の日本社会には、残念ながら英語が必要な場面はほとんど皆無に近い。しかして多大の時間と労力をかけた英語は、何か実際には使えない余計事のように見える。そういう意味では、英語を学ぶ環境は全く整っていない。英語をうまく運用できるためには、日々、実際に英語を使うことが最善であり、是非とも必要だからである。少しであるが、大学で留学生や帰国子女の学生などに英語で授業をするケースが増えている。このように英語で実際に何かをする必要が英語力を高める。

以上、英語教育にはいまだに解決できない問題が残っている。また上記に書かなかったような問題も多くあろう。こうした中で、大学の外国語教育では、

- (1) 英語が今後ますます必要な時代が来る。そして学生はやはり今後の社会でも指導的な立場に立つ場合が多い。その関連で、特に「話す」、「聞く」能力を重視して、学生の「コミュニケーション」能力を高めてゆかないといけないであろう。
- (2) 大学の外国語教育では、実際の外国語授業が重要である。それと共にもう一つ、外国語学習で必須の自学自習の支援システムが重要である。

という2点が重要である。香川大学では、この(2)の実際の授業は別の委員会が扱い、「コミュニケーション」を重視したカリキュラムが実施される運びになっている。私たちは、残るもう一方の側面、「大学における外国語学習の自学自習の支援システム」を扱う。

さて、このように考えた場合、二つのことが重要である。一つは、大学が自学自習支援システムを整備することであり、もう一つは、それを実際に行う学生意識である。文部省が公認の英検だけでなく、TOEFL、TOEICなどの諸検定にも認定を許し、学生たちのこれらの検定への挑戦を歓迎する今、大学サイドは、こうした支援システムにどう取り組もうとしているのであろうか、またこの問題の主人公である学生たちは実際に英語授業をどう考え、検定などをどう考えているのであろうか。私たちは、このことに非常に大きな興味を持ち、大学と学生に別々にアンケート調査をした。以下は、その結果である。

- (13) LL係員にTA (Teaching Assistant) を採用していますか。 [はい ・ いいえ]
- (14) 貴大学のLL教室ないしは自習室には、英検、TOEFL、TOEIC などの検定試験用の教材がありますか。 [はい ・ いいえ]
- (15) 貴大学では、英検、TOEFL、TOEIC などの検定を単位認定していますか。
[はい ・ いいえ]
- (16) (15)で「はい」の場合、どの検定をどのように単位認定していますか。
(分かる範囲で) []
- (17) 貴大学では、英検、TOEFL、TOEIC などの検定試験対策用の授業が開設されていますか。
[はい ・ いいえ]

(B) アンケートの回答

アンケートをお願いした大学は、国立大学と私立大学に分けて説明すると、国立大学は、単科大学以外の大学（語学系の単科大学にはお願いした）をお願いした。その結果、以下のような大学からご回答をいただいた。

北海道大学、弘前大学、岩手大学、秋田大学、山形大学、福島大学、筑波大学、宇都宮大学、群馬大学、埼玉大学、千葉大学、東京大学、お茶の水大学、一橋大学、新潟大学、富山大学、金沢大学、山梨大学、信州大学、岐阜大学、静岡大学、名古屋大学、三重大学、滋賀大学、京都大学、大阪大学、大阪外国語大学、神戸大学、和歌山大学、鳥取大学、島根大学、岡山大学、広島大学、徳島大学、香川大学、愛媛大学、九州大学、佐賀大学、長崎大学、熊本大学、宮崎大学、琉球大学 (42大学)

私立大学については、数が膨大であり、様々な専門領域を擁していることで、首都圏、名古屋圏、近畿圏、九州圏の代表的な大学と外語系大学だけに絞らせてもらい、アンケートをお願いした。その結果、次のような大学から回答をいただいた。

青山学院大学、学習院大学、慶応義塾大学、国際基督教大学、上智大学、中央大学、津田塾大学、日本大学（法学部、文理、経済、商学、芸術、国際関係、理工、生産工学、工学、医学、歯学、松戸歯学、生物資源、薬学）、法政大学、明治大学、明治学院大学、中京大学、同志社大学、立命館大学、関西大学、関西外国語大学、関西学院大学、福岡大学、獨協大学、神田外国語大学 (20大学)

ここにご協力をいただいた大学に対して深く感謝を申し上げる。なお、日本大学からの回答は、上記のように14学部別々にご回答をいただいたが、以下の報告では、一つの大学としてカウントする方式をとる。

まず基本的なデータの説明からはじめる。詳しい分析結果については、後に記す。また回答項目は、単に括弧つきの数字だけを記す。

- (1) 回答をいただいた大学は、上記に書いたとおりである。国立大学42大学、私立大学20大学である。
- (2) 外国語センター、もしくは全学共通の外国語担当者を中心にする学部がありますか？

	回答総数	はい	いいえ
国立大学	42	11	31
私立大学	20	7	12

42の国立大学の中で、「はい」と回答した大学は、11大学で、残り31大学は「いいえ」を回答している。私立大学の中では、7大学が「はい」と回答をいただいた。12大学は、「いいえ」と回答をいただいた。なお、数値が合わない場合には無回答があったためである。

- (3) LL 教室（外国語演習室）があるかどうかを聞いたところ、国立大学では、39大学が「はい」を、3大学が「いいえ」を選んだ。ほとんどの大学がLL教室を備えている。私立大学は、すべての大学から「はい」の回答があった。

	回答総数	はい	いいえ
国立大学	42	39	3
私立大学	20	20	0

- (4) それでは、LL教室に何が備えられているかを聞いたところ、以下のような回答であった。

		回答総数	テープを 聞く装置	テレビを 見る装置	ビデオを 見る装置	WWWを 見る装置	その他
国立	はい	39	39	28	38	19	22
私立	はい	19	19	14	19	13	9

その他の 内容		CD	LD	MD	DVD	PC	OHP	教材提 示装置	プロジ ェクタ	スラ イド	CALL システム	その他
国立	22	3	6	2	1	7	4	6	2	3	1	6
私立	9	0	5	0	2	2	4 (?)	0	0	0	0	3

一般的に言って、最近の様々な電子機器が設備されている。国立の1大学には、最新のCALLシステムが設備されている。私立大学には、同時通訳訓練装置や衛星放送も見られる装置の記述もあった。なお、この回答は、自由記述回答であるため、どこまで書けばよいのか不明であったので、CD、LDや、教材提示装置などは、備えられていてあたりまえと言う判断で記述されなかった可能性も高い。その意味では、上記の表は、むしろその多彩さを示す意味が高い。

- (5) 学生が自由に利用できる外国語自習室があるかを聞いてみた。

	回答総数	はい	いいえ
国立大学	42	11	31
私立大学	20	17	3

国立大学では、「はい」が11大学回答。「いいえ」は、31大学が回答する。私立大学では、17大学が「はい」を選択し、3大学が「いいえ」と回答する。国立大学では、学生が自由に利用できる外国語自習室の設備がまだ不十分（11/42）であると言えよう。

(6) 大学に学生が自由に利用できる自習室がある場合、年間何名ぐらいの利用者があるかを聞いてみた。

この質問は回答も難しいが、分析も難しい。だいたい LL と自習室に設備が分離されているかどうかは問題である。多くの大学では授業の一環として利用する機会が多いだろう。また LL 又は自習室に係（アシスタント）が常駐しているかどうかも問題がある。LL 又は自習室の利用は、対応してくれる係が居ると居ないとでは非常に大きな相違が出ると考えられるが、一方、係を常駐させるには多大の件費が必要であるからである。またもう一つの問題は、LL 又は自習室に学生が利用できる教材が装備されているかどうかも問題である。装備されていない場合には、利用は少ない。こうした問題をきちんと分けて質問しなかったために、回答してもらった数値の分析が難しくなった。詳しくは、論文末につける回答のデータを見て欲しいが、ここでは簡単な報告と指摘をしておきたい。

国立大学からの回答は、12 大学から 40～35,000 名までの数字が挙げられた。私立大からは、13 大学から 110 名～5,000 名の数字が挙げられた。

(7) 自習室のブースの数を聞いてみた。またブースに備えられた装置を聞いてみた。

国立大からは、15 大学から回答があり、その数値は、2, 5, 6, 6, 6, 10, 10, 16, 34, 40, 48, 52, 58, 80, 108 がその数値である。私立大学からは、17 大学から回答があり、8～82 (8, 10, 12, 15, 16, 20, 20, 30, 30, 30, 36, 41, 41, 50, 53, 59, 60, 82) までの数値が挙げられた。この数値からは、こじんまりした小さな自習室か、教室 1 室まるごとを自習室にした二つのケースが想像される。また自習室は、大規模なものはないことを示している。

	回答総数	テープを聞く装置	テレビを見る装置	ビデオを見る装置	WWWを見る装置	その他(記述)
国立大学	13	12	6	11	7	5
私立大学	17	15	11	15	8	10

国立大学の「その他」の記述回答には、パソコン、CD、LD、CALL システム、ダビング装置が挙げられている。I 大学は、たぶん装置全体が CALL システムになっているようだ。私立大学の「その他」の記述回答には、CNN、BS、LD、DVD、BBS、DV カム発話訓練装置、有線放送など多彩であった。

ここには、コンピューターと連動した装置と連動していない装置が区別されるであろう。そして今後語学教材の中心的な装置へと発展が予想される CALL との関連も窺える。

(8) LL 又は自習室に用意されている教材の種類を聞いてみた。

まず LL 教室の教材については、以下のとおりである。

	回答総数	テープ教材	ビデオ教材	CD-ROM 教材	その他(記述)
国立大学	31	30	30	16	7
私立大学	17	14	15	12	6

国立大学の「その他」の記述回答には、LD (4 校)、TOEIC 教材 (2 校)、CALL ラボになっている大学が 2 校がある。私立大学では、7 大学から回答があり、内容は LD、DVD、CNN の他に、センターから教材等を送れる装置や 16mm フィルムやスライド教材を挙げている。

続いて自習室内に備えられた教材については、以下の通り。

	回答総数	テープ教材	ビデオ教材	CD-ROM 教材	その他 (記述)
国立大学	13	11	10	11	5
私立大学	15	15	15	9	8

国立大学の自習室の「その他」の教材は、LD、CALL 教材やパソコン教材、スライド教材が挙げられた。「教材なし」も1大学あった。私立大学では、「その他」で、CD、LD、DVD が挙げられた。パソコンでの自学自習室用の教材を挙げた大学も1校あった。

LL又は自習室に用意されている教材は、学生の利用が考えられている大学では、ほぼどの大学でも備えられている。ただしパソコンとの関連がここでも見られる。

(9) 次に自習室の教材を学生にどのように伝達しているのかを尋ねた。

この回答は、記述回答なので、様々な回答をいただいた。また短い記述回答なのでよくわからない点があり、複数回答でもあるから、その点を含んで読んでいただきたい。国立大学からの回答は、25大学からあったが、リストを作っている大学は、8大学の記述に見られる。この中には図書館の検索カード式にしている大学も見られる。教官からの伝達を挙げた大学が8大学に見られる。大学の広報誌や学園だよりなどの伝達は、8大学で、大学のホームページを使っている大学がその中で3大学ある。他に直接教材の棚を見せる方法や、アシスタント係が対応する形態もある。

私立大学からの回答は、16大学からあり、その伝達方法は上記の国立と大差はない。ただ回答していただいた私立大学は学部数が多いからか、伝達方法をたくさん使い、学生の目に多く触れる工夫が見られる。リスト、掲示板、ホームページ、授業中になど多様である。詳細は論文末の参考資料のデータを参照して欲しい。

(10) 学生の使える教材の予算が組まれているかどうかを聞いた。

	回答総数	はい	いいえ
国立大学	40	19	21
私立大学	20	14	6

(11) 学生が教材の貸し出し (家に持ち帰る) を行えるかどうかを聞いた。

	回答総数	はい	いいえ
国立大学	39	7	31
私立大学	20	5	15

(12-1) LL 又は自習室に職員が配置されているかどうかを聞いた。

	回答総数	はい	いいえ
国立大学	40	22	18
私立大学	19	12	7

(12-2) LL 又は自習室に職員が配置されている職員は、次のどの職員かを聞いた。

	回答大学数	事務職員	技術職員	教務職員	その他 (記述)
国立大学	20	5	3	2	15
私立大学	5	2	1	2	5

国立大学では、正規事務職員はすくない。記述回答を見るとパート職員が多く、表記が違うが、11大学がその部類に分けられる。他に事務の補佐員や学生アルバイト、助手などを挙げられた大学もある。私立大学を見ると回答が少なかった。その他では、嘱託やアルバイト、副手やパート職員があった。

(13) LL の係員に T A (Teaching Assistant) を採用しているかどうかを聞いてみた。

	回答総数	はい	いいえ
国立大学	39	4	35
私立大学	1	0	1

T A は、国立大学の制度であるから、私立からはないのが当然であろう。

(14) 英検、TOEFL、TOEIC などの教材が備えられているかを聞いてみた。

	回答総数	はい	いいえ
国立大学	39	22	17
私立大学	20	16	4

(15) 英検、TOEFL、TOEIC の検定結果を単位認定しているのかを聞きました。

	回答総数	はい	いいえ
国立大学	41	15	26
私立大学	20*	3*	17

*日本大学では、国際関係学部のみ単位認定をしている。

(16) それでは、どの検定を単位認定しているのかを聞きました。

	回答総数	英 検	TOEFL	TOEIC	その他
国立大学		16	7*	6*	8
私立大学	6	2	0	0	0

国立大学では、TOEFL、TOEIC の検討中は、5大学が検討中か、来年度実施である。その他に挙げられた検定試験は、国連英検、ケンブリッジ英検、工業英検、独検、仏検、中検、HSK 漢語水平考査などである。私立大学では、英検の認定校が2大学あるが、他は少ない。ただし認定する方向で検討中が3大学ある。なお、英検以外の検定の単位認定は、1999年度になって初めて文部省が認めたので、少ないのは当然である。

(7) 最後の質問項目として、上記の検定試験の対策授業を開設しているかどうかを聞いてみた。

	回答総数	はい	いいえ
国立大学	41	13	28
私立大学	15	4	11

私立大学では、課外授業として開設している大学がある。ただし有料の授業になっている場合もある。

(C) 基礎的なアンケートのまとめ

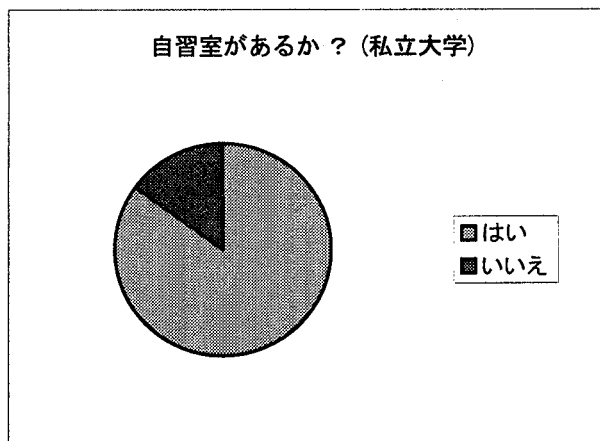
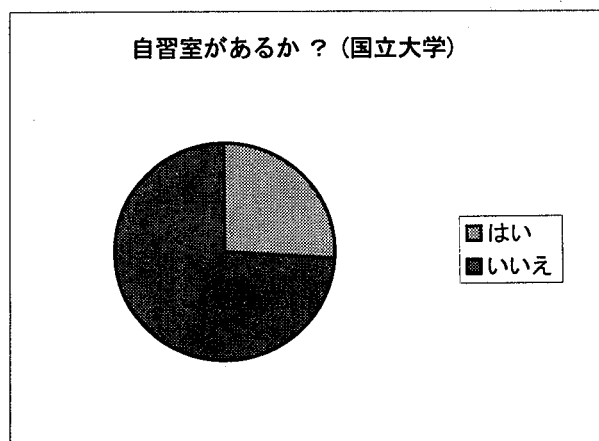
すでに (B) でアンケートの実際の数値は示したので、この「まとめ」では、いくつかの項目に絞って、グラフなどを使い、明確な傾向のみを報告したい。

(1) 回収率と数字の信頼性の意味

アンケートの数字は、私たちにいろいろなことを伝えてくれるが、その数値を的確に掴むには難しい問題がある。上記のアンケート結果においてもその数値の意味を判断するのが難しい。私たちは、国立大学の中から香川大学の現状を把握したいということでアンケートを依頼する大学を選んだ。原則として単科大学以外の大学（ただし外国語系単科大を除く）をお願いした。総数51大学中、回答をいただいた大学は42大学である。回収率は、82.4%で、非常によい結果であると判断している。私立大学は、首都圏、阪神圏、名古屋圏、北九州圏の代表的な大学だけに限らせてもらった。アンケートを依頼した大学は、25校で、アンケート回収率は80%で、同じく高かった。この回収率から見て、国立大学に関しては、もっともノーマルで通常的な現状を知ることが出来る数字と考える。また私立大学については、代表的な定員の多い大学での現状と傾向が理解できる数字と考える。

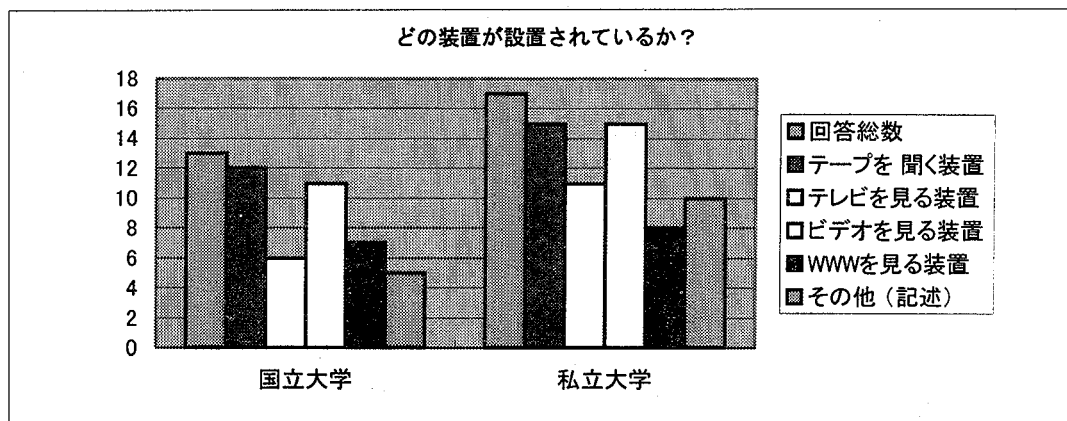
(2) LL（外国語演習室）と自習室の設置の状況

私たちは、LL を授業に使う演習室と理解し、学生が自由に使用できる自習室を区別した。その結果は、LL については、国立大学で39/42で、92.8%、私立大学は100%であるから、ほとんどの大学で完備している。しかし自習室では、国立大学では、11/42で、26.2%で、約4分の1の大学にしか自習室は設備されていない。私立大学は、アンケートした大学がみな私立の代表校であるからだろうが、17/20で、85%となり、8割以上の大学で自習室は設備されている。これは、国立大学には、自習室はまだまだ十分に設備されていないと考える。



(3) LL (外国語演習室) と自習室の設置されている装置の状況

ほぼどこのLLにも自習室にも「テープを聞く装置」と「ビデオを見る装置」は、ほぼ100%設備

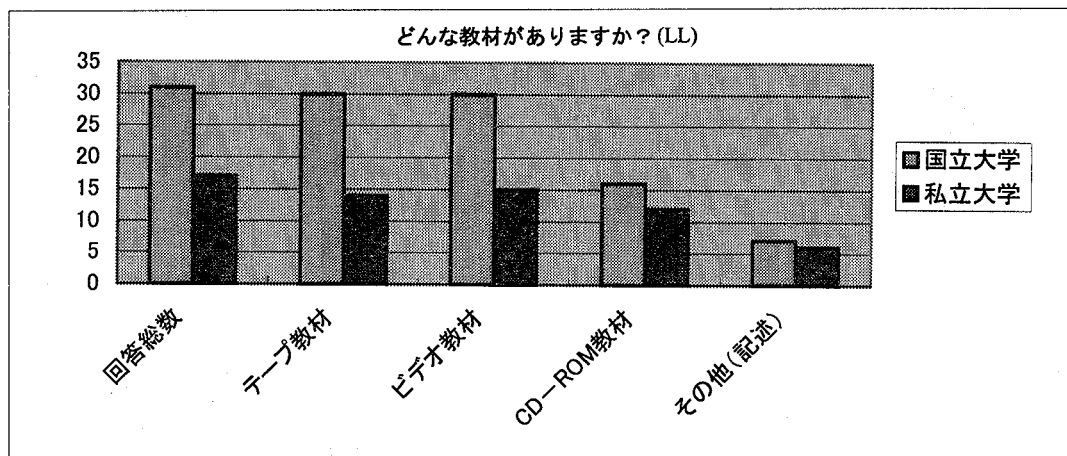


されているが、「テレビを見る装置」は、国立大学で71.8%、私立大学で74.7%と少し低い。「WWWを見る装置」は、国立大学で48.7%、私立大学で68.4%となる。その他は、(B)で示したように多彩である。

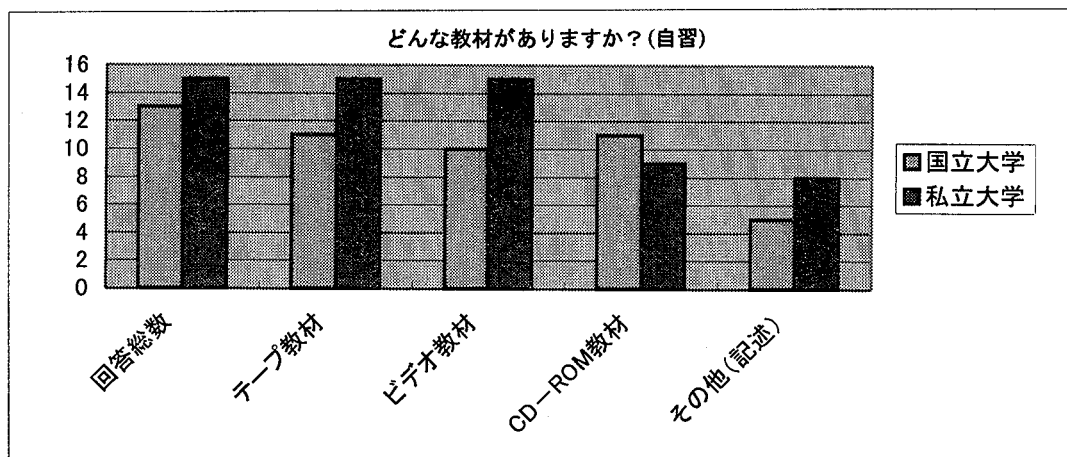
(4) LL (外国語演習室) と自習室の装備されている教材の状況

これは、LLと自習室に分けて聞いてみた。

LLでは、次のようになった。回答総数は、国立で31/42、私立大学は17/20である。



やはり、CD-ROM教材の数値が、特に国立大学でコンピューター施設を備えたところが少ないことを示す。



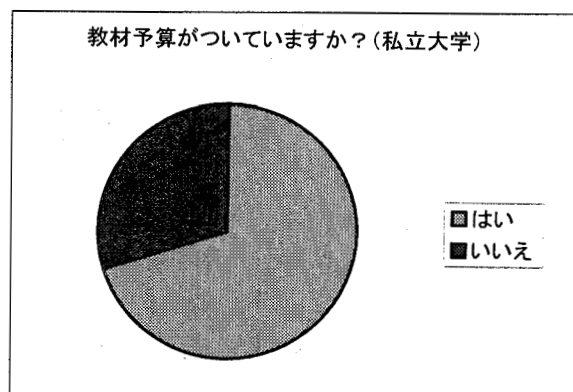
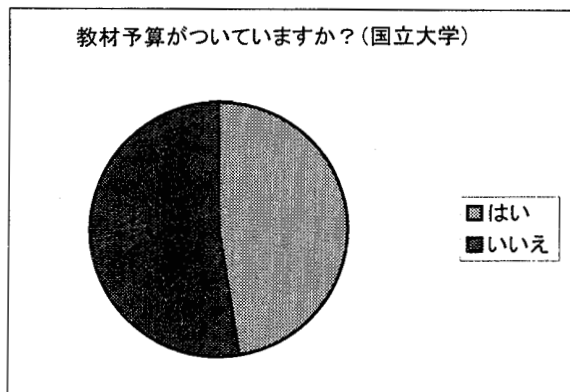
自習室では、上のようになった。回答総数は、国立大学で13/42、私立大学は15/20である。

回答総数から見て、国立大学では、自習室そのものが少ない。教材は、高い数値を示すが、私立大学のCD-ROM教材の数値が少し低い。コンピュータ使用の対応が遅れていることを示す。

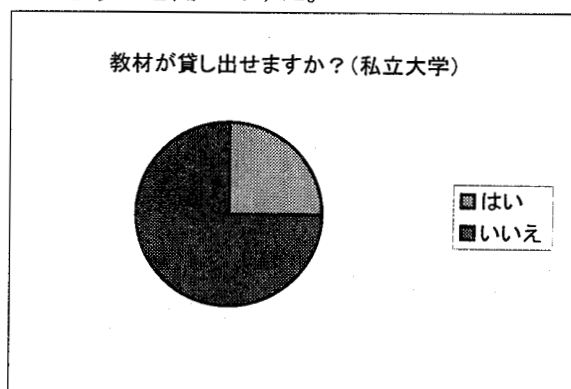
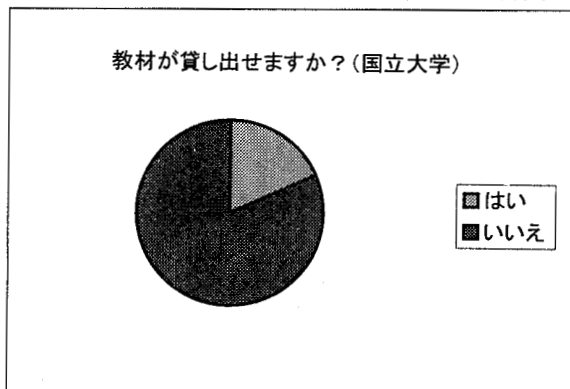
(5) 自習室の教材予算、貸し出し制度、職員配置などについて

どんなに立派な自習室を設備しても学生が利用しなければ意味が無い。学生利用を考えた場合、次の三つの項目は非常に重要である。

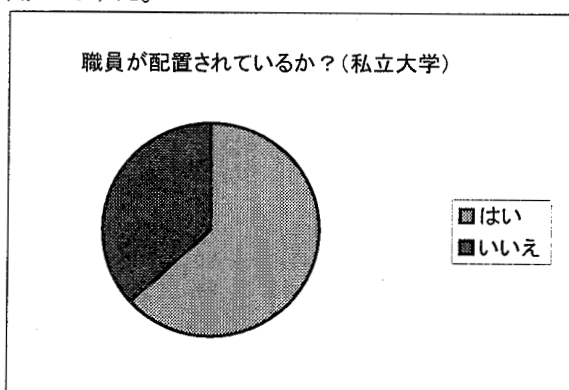
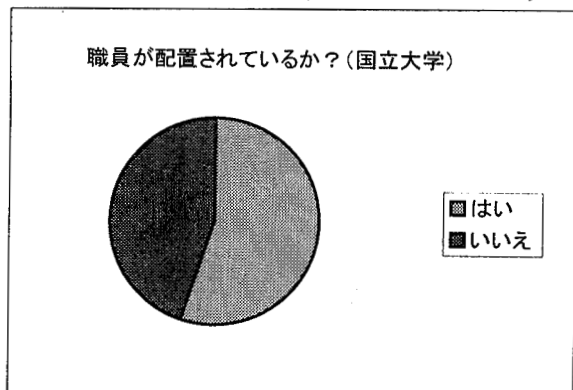
まず教材予算がついているかどうかを聞いてみた。



次に学生が教材を家に持ち帰る貸し出し制度があるかどうかを聞いてみた。



最後に自習室に職員が配置されているかどうかを聞いてみた。



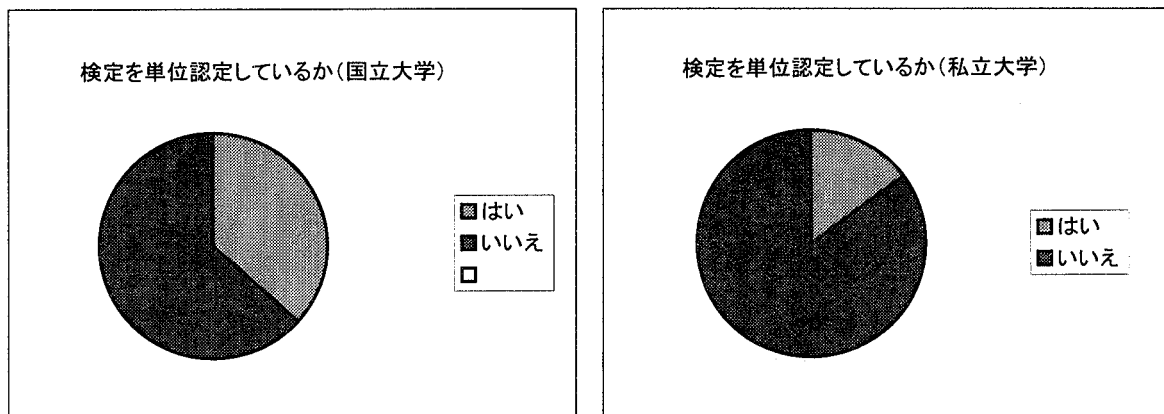
これらの数値には、無回答があったが、それはグラフの数値には加えられていない。しかし数値は小さいので、回答があった大学全体の傾向は分かる。

教材について言えば、国立大学では、予算化されている大学は約半分。私立大学は、代表的な大学ばかりであるが、約7割である。教材がそろえられていない場合には、利用率が落ちるだろうことは推測される。

教材の貸し出し制度は、著作権と管理面で大変難しい問題がある。しかし学生にとっては恐らく非常に便利な制度ではあると思う。このような意味合いもあってか、国立大学で、7校で、7/39であるから約16%である。私立大学では、5校（5/20）、約4分の1である。

職員が居ると居らないでは、利用率が大きく違うと考えられるが、国立大学で52.3%である。また代表的な私立大学で、63.1%である。やはり設備の目的（授業用か、それとも自習室用か）と人件費の高さが問題なのであろう。

(6) 最後に検定結果の単位認定をしているのかどうかを聞いてみた。



この数値をグラフで見ると何か、国立大学の方が単位認定制度が進んでいるように見える。しかし内容を見ると納得がいくかもしれない。というのは、国立大学の単位認定は文部省公認の英検がその大半である。すでに何度も言及したが、昨年3月に文部省は通達を出し、英検など、これまで文部省が認定してきた検定だけに単位認定を許してきたが、今後は、TOEFL、TOEIC など社会的な認知がある検定であれば、それを認定してもよいと検定試験に対する方針を変更した。この流れで言えば、まだまだ検定結果の単位認定の道は、公認されたばかりである。したがって、TOEFL、TOEICなどの諸検定に対して大学がどのような考え方を採り始めたかが問題である。この小論末に参考資料として各大学からのデータを付けるが、それをご覧になっていただきたい。国立大学でも私立大学でもまだ道が開かれて1年も経っていないのに、数校はもう検定制度の単位認定制度を立ち上げているし、検討中も多い。おそらく一斉にここ2～3年の内に大学は、検定結果に対する対応方針を決めるようになることが予想される。

以上基礎的なまとめをしてきたが、自習室はまだまだ十分に設備されていないし、たとえ設備されていても、装置、教材、職員の常置、予算枠、貸し出しなど様々な問題点がありそうである。また検定の単位認定について言えば、まだ道が開かれて1年も経っていないのにすでに数校が制度を立ち上げ、検討も始められている。就職時の資格試験に大いに威力を発することもあるので、学生の人気もあろうが、おそらく大学の検討課題の一つになっていると思われる。

(2-2) 学生の外国語学習の意識調査アンケートの基礎データ

(A) 学生に対する「英語資格試験等に関するアンケート」の項目内容

私たちは、自学自習システムの制度の主体、つまり学生自身の意識を知っておかないとどれほど充実した自学自習システムを考えてもうまく行かないと考えて、香川大学の1・2年生対象のクラスで次のようなアンケートを行い、その意識を探った。まずアンケート項目を紹介する。

○英語資格試験等に関するアンケート

該当のものに○印をつけて、囲んでください。また記述欄には、記述してください。

学年(1. 2. 3. 4.) 性別(男・女) 学部(教・法・経・農・工)

(1) あなたは、英語が得意の方ですか。それとも不得意の方ですか。

[得意 ・ ふつう ・ 不得意]

(2) あなたは、現在、もっと英語力を上げたいという意欲を持っていますか。

[はい ・ いいえ]

(3) あなたは、大学の授業以外に英語の勉強をしていますか。

[はい ・ いいえ]

(4) 3で「はい」と答えた場合、それは具体的にはどのような勉強ですか。

【記述欄： _____】

(5) あなたにとって、大学で英語を学習する目的は何ですか。(回答は2つまで可能)

[①外国人と友達になりたい ②留学したい ③将来の仕事に備えて ④資格を取得したい
⑤何となく好き ⑥一般教養として ⑦その他【 _____ 】]

(6) あなたは、本学には外国語自習室(以下『自習室』)があることを知っていますか。

[はい ・ いいえ]

(7) 6で「はい」と答えた場合、あなたは、自習室の外国語教材を利用したことがありますか。

[はい ・ いいえ]

(8) 6で「はい」と答えた場合、あなたは、自習室の器財を利用したことがありますか。

[はい ・ いいえ]

(9) 次の資格試験のうち、あなたが知っているものに○をつけて下さい。

①英検 ②TOEFL ③TOEIC ④国連英検 ⑤通訳案内業試験 ⑥工業英検
⑦その他(_____)

(10) 上記9の資格試験のうちいずれかに挑戦したことがありますか。

[はい ・ いいえ]

(11) 10で「はい」と答えた場合、それはどの試験ですか。

(検定の名前： _____ 級： _____ 点数： _____)

(12) 大学卒業までに、上記9のいずれかを受験したいですか。「はい」の場合には、それはどの試験ですか。

[はい・いいえ] (受験したい試験： _____)

(13) 12で「はい」と答えた場合、日頃、自分で試験対策の学習をしていますか。「はい」の場合、それはどのような勉強ですか。

[はい ・ いいえ] (勉強内容： _____)

(14) 資格試験対策用教材を自習室に入れたら、あなたは、それらを利用したいですか。

[はい ・ いいえ]

(15) 自習室に入れてもらいたい教材があったら、分かる範囲で結構ですから、その名前やその種類を記入して下さい。 【 】

(16) 教養英語のクラスとして資格試験対策クラスを作るとしたら、あなたは、受講しますか。

[はい ・ いいえ]

アンケートに協力してもらって、どうもありがとうございました。この結果は、来年度発行の「香川大学教養教育研究」に研究報告を掲載する予定です。また、外国語自習室の教材充実に役立てたいと考えています。
教養教育調査研究部会部会長 山口 博幸 (教養教育主管)

(B) アンケートの回答

このアンケートは、1999年の10～11月に、香川大学の全学部から1年と2年生の語学クラスを一つずつ選んで、行った。従って、基礎データの数は、教育学部 83人、法学部 94人、経済学部 105人、農学部 92人、工学部 88人で、合計は462名である。

各項目別に基礎的な数値を挙げる。

(1) 貴方は英語が得意ですか？

	総数	得意である	普通である	不得意
教育学部	83	9	44	31
法学部	94	14	59	22 (不明1)
経済学部	105	13	47	44
農学部	92	5	46	41
工学部	88	6	29	53
全体	462	47	225	147

(2) 英語力を上げたいか？ (3) 授業以外に勉強しているか？

	総数	上げたい	意欲はない	授業外の勉学者
教育学部	83	72	12	5
法学部	94	74	19	10
経済学部	105	79	26	7
農学部	92	72	20	11
工学部	88	66	22	4
全体	462	363	99	32

(4) 授業以外に何をしていますか？

教育学部の5人は、英会話など、TOEFL 独学、語学学校、英会話、英検問題集

法学部学生の10人は、熟語帳を覚える、TOEFL 問題集、英会話学校週2回、単語暗記、ラジオ英会話、読書、英検の勉強、TOEFL の勉強、英会話学校、通信教育、通信教育、

経済学部学生は、映画によるリスニング、高校／予備校教材の復習、ラジオ英会話、単語暗記、英会話学校、問題集、英会話学校、

農学部学生は、英検と TOEIC の対策勉強、英語のテレビを見る、英検の勉強、ラジオ英会話、英語ニュース、ハウツー本、読書、アメリカ人との会話、英検の勉強、英語の小説、英検の勉強、NHK の教育番組、英会話の本など。生は、NHK ラジオ英会話、TOEIC、英会話、本を読むなどの記述回答があった。

(5) あなたにとって、大学で英語を学習する目的は何ですか？（2つまで回答可能）

質問項目は、①外国人と友達になりたい。 ②留学したい。 ③将来の仕事に備えて。
④資格を取得したい。 ⑤何となく好き。 ⑥一般教養として。 ⑦その他（記述回答）

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	合計
教育学部	8	9	20	15	7	54	7	120
法学部	7	12	28	22	9	61	6	145
経済学部	5	3	27	17	8	76	9	145
農学部	11	7	37	8	7	55	13	138
工学部	10	3	47	14	6	41	9	130
合計	41	34	159	76	37	287	44	678

教育学部の⑦のその他は、6名が「必修授業」を挙げた。法学部学生の⑦のその他は、4名が「必修授業」を挙げた。1名は就職試験を挙げた。経済学部の⑦のその他は、6名が「必修授業」を挙げた。農学部の⑦のその他は、6名が「必修授業」を挙げた。工学部の⑦のその他は、8名が「必修授業」を挙げた。

(6) 外国語自習室があることを知っていますか？ (7) 教材を利用したことがあるか？

	総数	知っている	知らない	利用した	利用しない
教育学部	83	31	52	3	33
法学部	94	27	67	5	27
経済学部	105	37	68	0	41
農学部	92	12*	80	0	12
工学部	87	23	64	1	23

*農学部だけ極端に数値が低いのは、アンケート学生の半分、2年生が教養教育の行われていない農学部キャンパスで勉学し、すでに教養教育の単位を修得しているからであろう。

(8) 次の資格のうち、あなたが知っているものに○を付けてください。

①英検 ②TOEFL ③TOEIC ④国連英検 ⑤通訳案内業試験 ⑥工業英検 ⑦その他

	①英検	②TOEFL	③TOEIC	④国連英検	⑤通訳案内業試験	⑥工業英検	⑦その他
全 体	424 (66%)	274 (42%)	305 (47%)	108 (17%)	9 (1%)	36 (6%)	2 (0.3%)
教育学部	65	58	58	25	3	1	0
法学部	90	75	79	36	2	5	0
経済学部	101	59	72	19	2	4	1
農学部	86	46	51	20	1	2	0
工学部	82	36	45	8	1	24	1

(9) 前項目の中でどれに挑戦したか？

	英 検								
	1級	準1級	2級	準2級	3級	準3級	4級	5級	
教育学部	0	1	14	18	17	0	7	1	61/22
法学部	0	2	23	14	21	0	7	0	66/28*
経済学部	0	2	14	10	22	1	8	1	63/41
農学部	1	1	7	17	26	0	4	2	59/33*
工学部	0	0	3	11	24	0	7	0	51/37**

*国連C級が1名。**他に国連英検C級とD級に2名が挑戦した。***級が不明が4名、TOEICが1名。
なお、このデータには、複数受験者、級の不明、勘違いなどがあり、合計数が合っていないことがある。
たぶん準3級は、勘違いであろう。

(10) 卒業までにどれを受験したいのか？

	英 検	TOEIC	TOEFL	国連英検	その他
教育学部	26	24	10	3	1
法学部	25	34	19	4	1
経済学部	27	19	7	0	0
農学部	24	15	12	2	0
工学部	21	11	7	0	5*

*工学部のその他は、工業英検である。

(11) どんな勉強をしていますか？

教育学部学生は、4名が記述回答で、テキスト・問題集などの自習。

法学部学生は、7名が記述回答で、通信教育や単語集、テキスト・問題集などの自習。

経済学部学生は、2名が記述回答し、問題集やテキストの自習。

農学部学生は、3名が記述回答し、問題集や問題集などの自習。

工学部学生は、4名が記述回答で、リスニングやテキスト・問題集などの自習。

(12) 資格試験の教材を自習室に入れたら利用したいですか？

	総 数	利用したい	利用しない
教 育 学 部	84	57	27
法 学 部	94	60	32
経 済 学 部	105	60	43
農 学 部	93	53	30
工 学 部	88	45	43

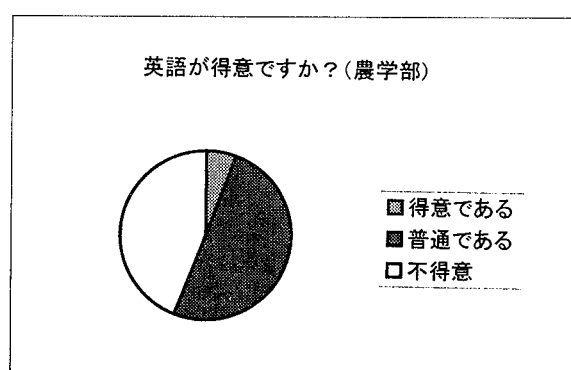
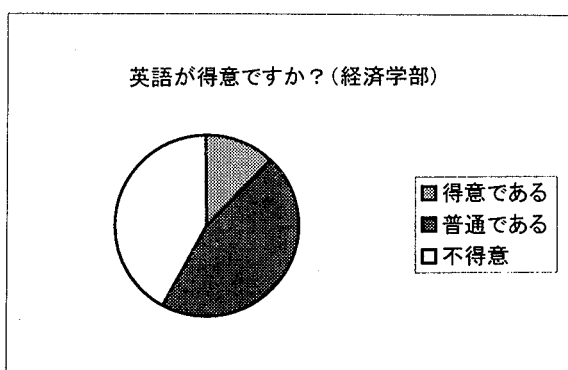
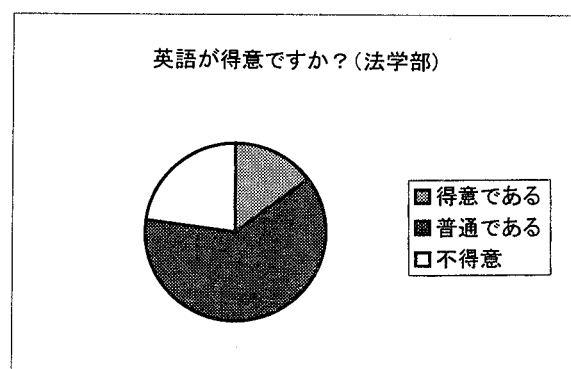
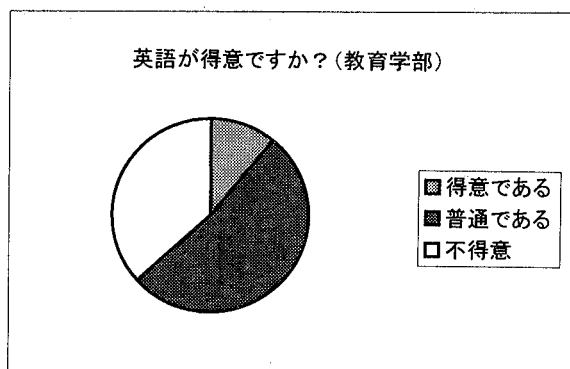
(13) 資格試験の対策クラスを作れば、受講しますか？

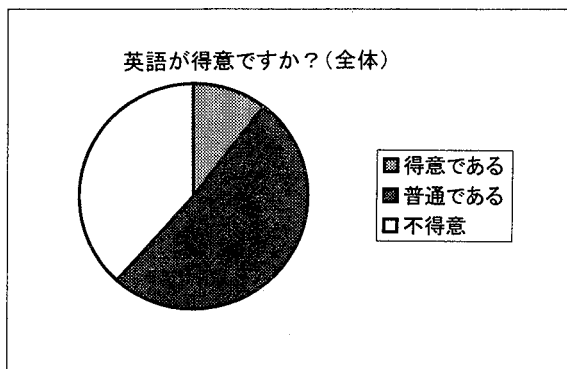
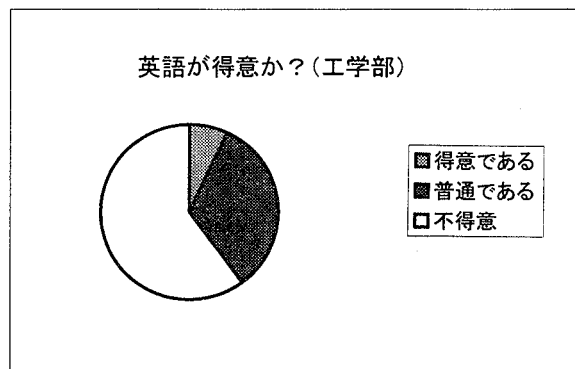
	総 数	受講する	受講しない
教 育 学 部	84	48	35
法 学 部	95	57	38
経 済 学 部	105	51	54
農 学 部	93	55	38
工 学 部	88	42	44

(C) アンケートの基礎的なまとめ

まず項目の1の英語が得意か、どうかである。

項目の1

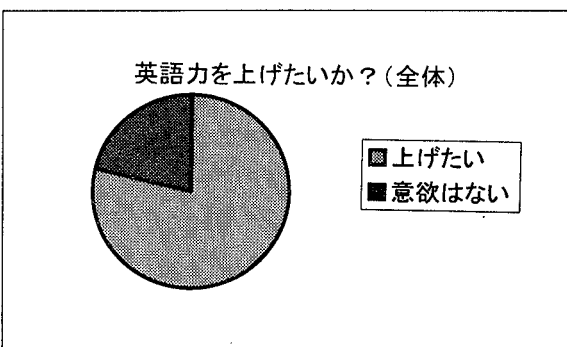
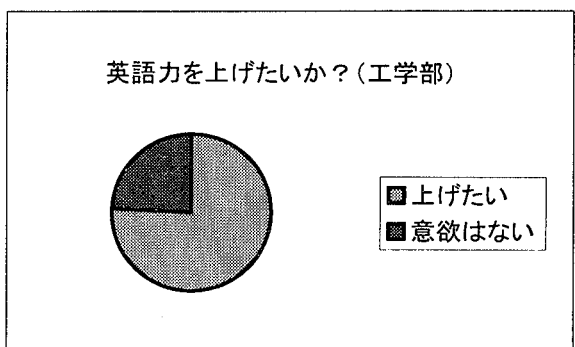
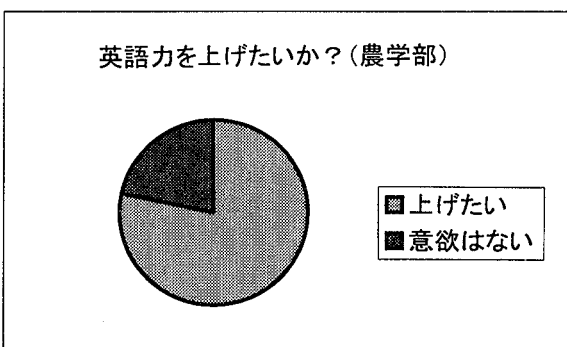
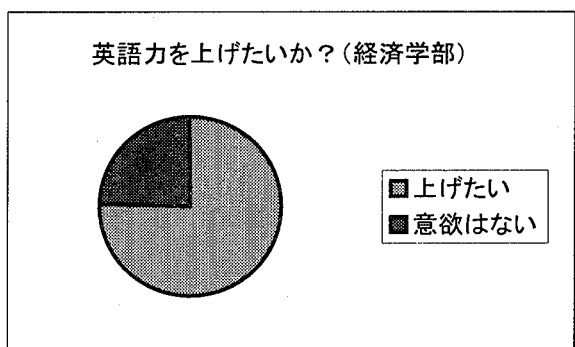
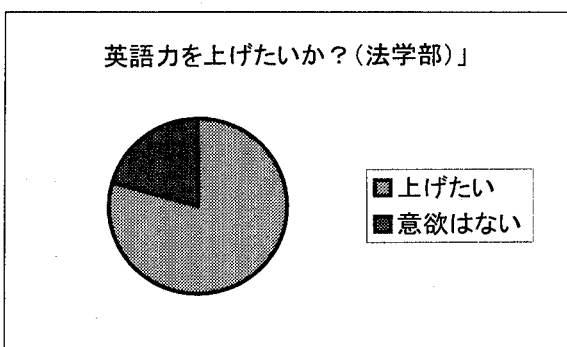
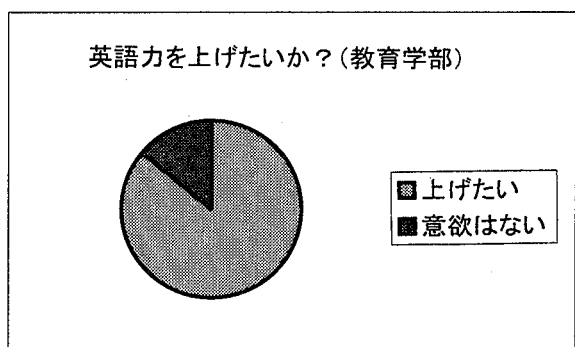




このグラフを見ると英語に対する各学部学生の意識傾向がわかって面白い。英語が得意で、不得意が少ないのは法学部。理系学部の学生は、得意が少なく、不得意が多い傾向が見える。

項目2の英語力を上げたいと思っているかを聞いた。

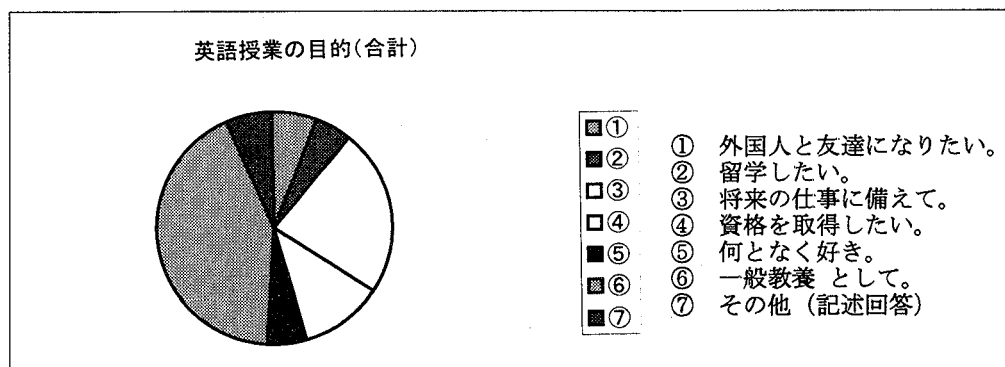
項目2



グラフを見ると学生は75%以上英語力を上げたいと考えている。意識上では、英語を得意と考える学生は少ないのに、英語力は上げたいと考えている。これは英語が重要な科目と考えていることを表す。

項目5で、大学の英語授業をどのような目的で受講しているのかを聞いてみた。全体の数値で見ると下のグラフのようになる。

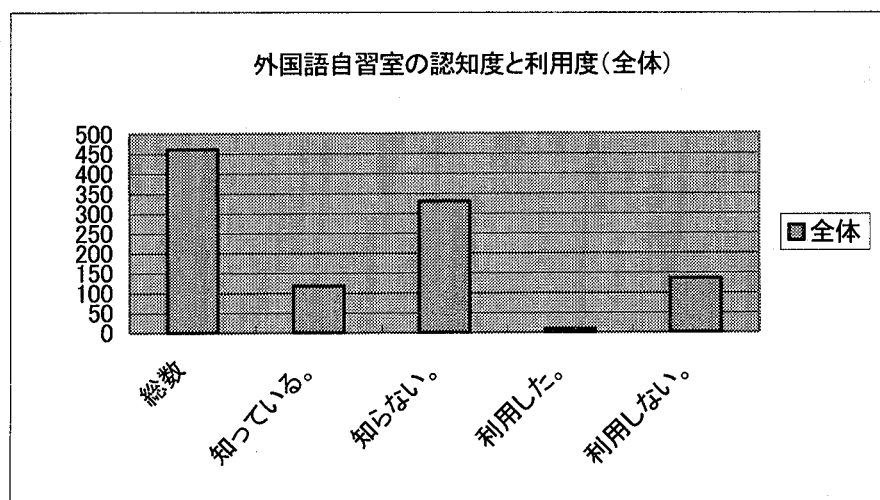
項目5



グラフを見ると一見して分かるのは、「⑥一般教養として」と「③将来の仕事に備えて」が多いことである。私たちの調査研究は、大学の外国語授業で現在の「コミュニケーション能力」をもっと高めようとする社会的な潮流を大学がどう受けとめるかをテーマの一つにしているが、その関連から言ってここには面白いデータが出ていると言えよう。すなわち、学生はたぶん「コミュニケーション能力」を高めたいと考え、またその必要性にも気が付いているが、やはり授業の動機は「⑥一般教養として」英語を学ぶ学生が多いということである。あるいは逆にまた現在の英語授業が一般教養として行われているので、学生の意識もこうなっているとも考えられる。

次に項目6に移り、外国語自習室の認知度と利用度を見してみる。

項目6



これは、私達教官が驚くべき数値かもしれない。私たちは極めてよく知り、LLを授業にも使っているのに(自習室は同じ場所にあるが、分かりにくい)、認知度は約4分の1で非常に低い。また利用度をもっと小さい。これは私達教官の広報が弱い結果を示している。自習室の充実を考える場合、強く反省すべき項目である。特にこの結果を項目12と比較すると非常に明白になる。

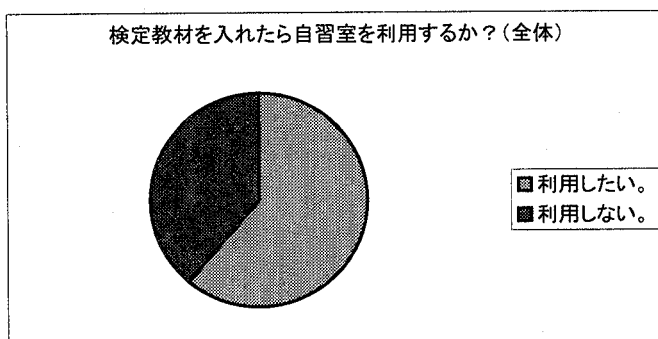
次頁グラフは、語学の検定用教材を自習室に入れたら利用するかどうかを聞いたものである。ほぼ7割に近い学生が利用すると答えている。

次に検定試験の知名度と受験経験を聞いてみよう。項目8は、各種検定試験の知名度を表している。学生への全アンケート数は641名であった。全体から言っても英検と TOEFL、TOEIC と言う三つの検定試験の知名度は抜群である。

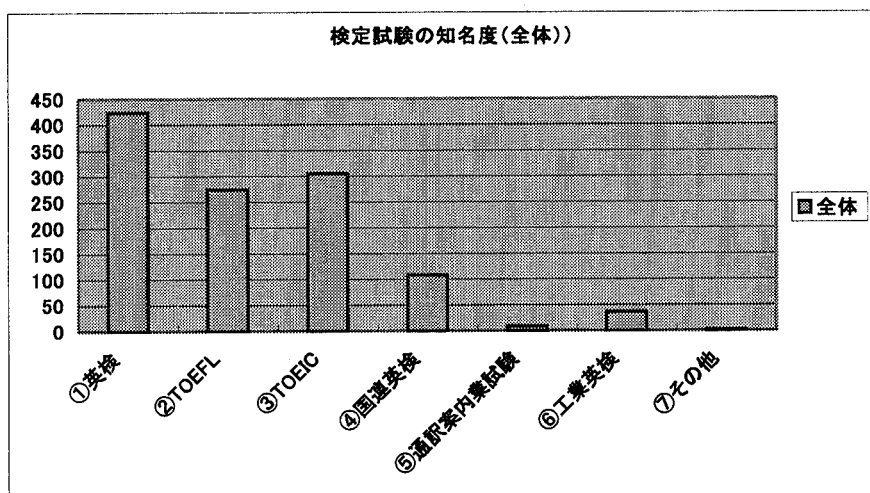
そして検定試験の経験を聞くと高等学校の指導もあってであろうが、英検の受験者は少なくない。次の表が項目9である。

特に3級を受験した学生数は、100名を越している（表の準3級は回答者の勘違いであろう）。

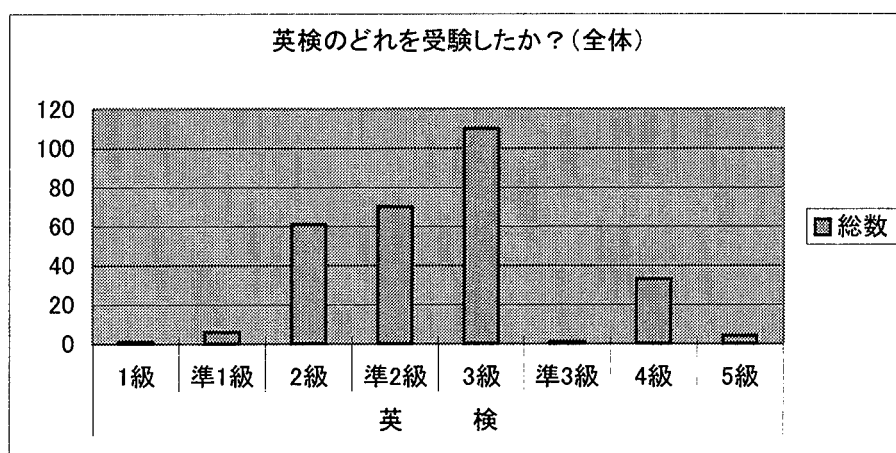
項目12



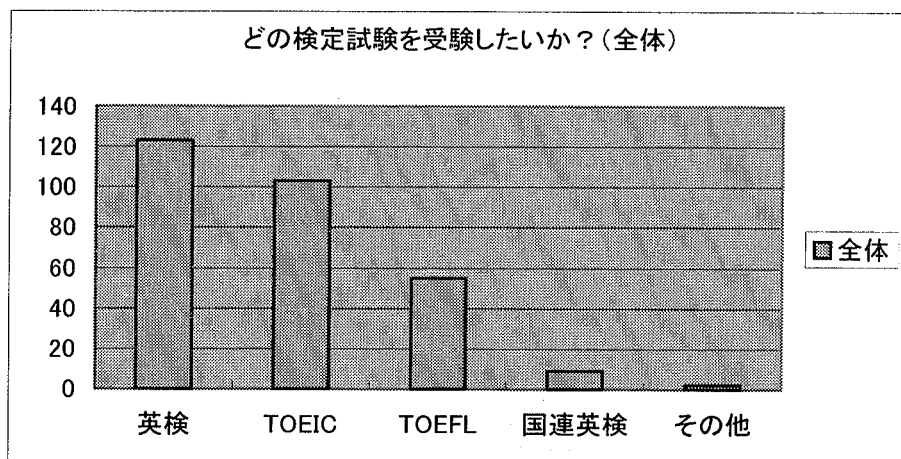
項目8



項目9



項目 10



それでは学生は検定試験を受験しようと考えているのであろうか。項目 10 で、卒業までにどの検定試験を受験したいのかを聞いてみた。

これで見ると英検はアンケート回答者の 2 割弱が受験したいと答えている。大きな数字ではないが、無視できない数字と考えられる。

さて、学生へのアンケートの基礎データとその傾向をまとめてきたが、大きく言うと学生は英語が得意と考える数は大きくないが、必要と考える学生は多い。英語力を上げたいと 7 割ぐらいの学生は考える。自習室の知名度は低く、現在ではあまり利用されていない。しかしこれは利用したくないからではなく、知らないからであろう。各種の検定試験についてはかなり知られており、受験を考える学生も 2 割はすでにいる。大学が適切に広報し、指導と教材等を充実してみる価値は大いにあると統計には出た。

(3) アンケート結果の検討

2 章でまとめた基礎データ資料をもとに、本章では、まず 3. 1 節で、各大学での外国語教育用施設、特に外国語自習室の運営状況を整理し、香川大学での現状は全国の状況から見てどのように位置付けられるのか、更に充実した施設とするためには何を考えなければならないのかを探ってみる。3. 2 節では、学生アンケートの結果から、学生の英語学習に対する意識について考える。

3-1 外国語教育施設の利用状況に関するアンケート

3-1-1 大学規模の整理

学生の絶対数の差がそのまま施設の充実度に通じる、すなわち、国立大学よりも私立大学の方が、小規模大学よりも大規模大学のほうが、圧倒的に充実度が上であろうと一般的に推測されがちだが、こと外国語教育施設、しかも外国語自習室のような自学自習支援体制の整備度となると、どうなのか。また、どのような大学で自習室利用度が高いのか、そのような大学での人的措置はどのようになっているのか、香川大学の現状はどのように位置付けられるのか、といった点を、以下で見ていく。

まず、大学の規模によって、調査対象大学を分類しておこう。全学入学定員数によって、調査対象大学の規模を 6 段階に分けてみると次のようになる。

類別	入学定員	国立大学	私立大学
①	～1,000人	10	3
②	～1,500人	11	2
③	～2,000人	9	1
④	～2,500人	7	1
⑤	～3,000人	4	2
⑥	3,500人～	1	11

さらに、回答項目2を使って、外国語教育担当組織の設置状況によって分類すると、次のようになる。

表1：外国語教育施設利用・運営利用・運営状況（国立大学）

大学名	1-2 類別	2	2類別	5	6	7-1	7-2 使用者 数	10	11	12-1	12-2
広島大学	⑤	1	②	1	35000	108	324.1	1	2	1	1,3
千葉大学	④	1	②	1	18120	080	226.5	1	2	1	4(非常勤職員)
筑波大学	③	1	②	1	09435	016	589.7	1	2	1	1,2
名古屋大学	④	1	①	1	00434	006	072.3	1	1	1	2(助手)
金沢大学	③	1	②	1	00300	006	050.0	1	1	2	
琉球大学	③	1	③	1		005		1	2	1	2(2名), 4(パート職員2名)
お茶の水女子大学	①	1	③	1(LL教室を昼休みに開放)	00750	052	014.4	1	1	1	4(事務補佐員(主に院生))
九州大学	④	1	①	2				1	2	1	1(非常勤)
北海道大学	④	1	①	2				2	2	1	2
京都大学	⑤	1	①	2				2	2	1	1,4(時間雇用職員)
大阪大学	⑤	1	①	2				2	2	1	4(事務・技術補佐員)
大阪外国語大学	①	2		1	13000	058	224.1	1	2	1	1,3
東京大学	⑥	2		1	03000	034	088.2	1	2	1	2
香川大学	②	2		1	00200	010	020.0	1	2	1	4(パート職員)
宇都宮大学	①	2		1(授業のない時間帯のLL)	00350	046	007.6	2	2	1	4(LL補助員(学生7人パート))
一橋大学	②	2		1(LL教室使用)	00100	010	010.0	1	2	1	4(助手)
佐賀大学	②	2		1(ドイツ語教室のみ)	00040			1	1	1	4(非常勤職員)
岐阜大学	②	2		1		006		2	2	1	4(非常勤職員)
愛媛大学	③	2		1				2	検討中	2	
宮崎大学	①	2		2				1	1	2	
岩手大学	②	2		2				1	1	2	
鳥取大学	①	2		2				1	1	1	4(事務補佐員)
山形大学	③	2		2				1	2	2	
岡山大学	④	2		2				1	2	1	4(日々雇用職員)
熊本大学	③	2		2				1	2	1	4(非常勤職員)
福島大学	①	2		2				2	2	1	4(事務補佐員)
神戸大学	⑤	2		2				2	2	1	4(技術補佐員)
弘前大学	②	2		2				2	2	2	
秋田大学	①	2		2				2	2	2	
新潟大学	④	2		2				2	2	2	
群馬大学	②	2		2				2	2	2	
静岡大学	④	2		2				2	2	2	
富山大学	②	2		2				2	2	2	
滋賀大学	①	2		2				2	2	2	
和歌山大学	①	2		2				2	2	2	
島根大学	②	2		2				2	2	2	
徳島大学	②	2		2(LL教室を昼休み開放)				2	2	2	
長崎大学	③	2		2				2	2	2	
山梨大学	①	2		2				2		2	
埼玉大学	③	2		2				2	2	2	
信州大学	③	2		2				2			
三重大学	②	2		2							

<国立大学>

- ①言語文化部等の独立組織を持つ大学：北海道大学、名古屋大学、京都大学、大阪大学、九州大学
 ②外国語センターを持つ大学：千葉大学、筑波大学、金沢大学、広島大学（①および②で全体の26%）
 ③その他：お茶の水女子大学、琉球大学
 ④独立組織をもたない大学：残りの31大学（これは調査対象国立大学中74%）

余談だが、④に属す大学でも、教養部解体に伴う改組、分属により、語学担当教官が別組織に配置換えになっても、語学授業を中心的に担当し、実質的運営を行っているのは旧教養部教官であることが多く、外国語教育担当者組織自体は解体されていない。本稿とは直接関係しないことではあるが、語学教育が大学の教育科目からなくなならない限り、この組織が解体することはありえないのであり、語学教育体制を今後どのように位置付けていくべきかが、74%の大学での大きな課題になっているに相違ない。

<私立大学>

- ①該当校なし。
 ②外国語センターに相当する組織をもつ大学：独協大学、学習院大学、上智大学、同志社大学、立命館大学、関西大学（設置準備中）、関西学院大学（調査対象私立大学中35%）
 これに、日本大学国際関係学部を加えると、8大学となる。ここでは、いわゆる東京六大学（東京大学を除く）が外国語センターを持っていないのに対し、関関同立がそれを持っている点は、外国語センターという組織作りに関して対照的な姿勢を示しているようで、おもしろい。

これら二つの情報をそれぞれ「1-2 類別」と「2 類別」として基礎データに加えて、大学の規模と、外国語自習施設の利用、運営状況について国立大学からのアンケート結果を整理したものが表1である。表の最上段の項目及び数字は以下を意味する。

「1-2 類別」：前述の大学規模を示す6分類

「2」：外国語センター、もしくは全学共通の外国語担当者を中心とする学部があるか
 （1：はい 2：いいえ）

「2 類別」：前述の外国語教育独立組織の3分類 ①、②、③

「5」：外国語自習室があるか （1：はい 2：いいえ）

「6」：外国語自習室の年間利用学生数

「7-1」：外国語自習室のブース室

「1 ブースあたり使用者数」：ブース1台あたりの年間使用者数（年間利用学生数をブース台数で割った数字）

「10」：学生が使用する教材の予算が組まれているか （1：はい 2：いいえ）

「11」：学生の教材借り出しが可能か （1：はい 2：いいえ）

「12-1」：LLまたは自習室に職員が配置されているか （1：はい 2：いいえ）

「12-2」：職員の身分（1：事務職員、2：技術職員、3：教務職員、4：その他（記述））

尚、表の上段より次の基準により大学を配列した：

- ・分類項目「2」（独立教育組織をもつか）で昇順配列
- ・表には現れていないが、分類項目「3」（LL教室があるか）で昇順配列
- ・分類項目「5」（外国語自習室があるか）で昇順配列
- ・分類項目「6」（年間利用学生数）で降順配列
- ・北方にある大学が上段

3-1-2 国立大学での状況（外国語センター運営が有効）

外国語センターの有効性

目を引くのは、外国語センターを持つ大学での学生による施設の利用状況の高さであろう。筑波大学、広島大学、千葉大学の「1ブースあたりの年間使用者数」は、外国語単科大学である大阪外国語大学での利用状況を大きく上回るものとなっている。金沢大学でも外国語センターが設置されているが、ここでも、大阪外国語大学の数字を多少下回るものの、高い利用者数を示している。

外国語センターにも様々ある

各センターのホームページを見てみると、外国語センターという同じ看板を掲げていても、筑波大学と広島大学の組織のありようと、千葉大学と金沢大学のそれとでは、スタッフ編成が異なる。前者では、ことばは悪いが教養語学教官の受け皿としてではなく、専任教官を持つ独立組織として機能しているようであり、表1に現れている数字はその存在意義を強く示すものとなっている。

広島大学の斬新な試み

広島大学のホームページでは、学生だけでなく学内教職員をも対象として、頻繁に更新しながら情報提供しており、中にはフリーウェアとして学習ソフト（8種類）を提供するといった、他大学では全く見られない斬新な試みも行われ、充実した内容の情報を提供している。（なお、アンケートへの記入内容を見ると、広島大学では外国語自習室が2室設置されているようで、その必要性が学内でも強く認識されている様子がうかがわれる。）

学生用ソフト購入予算と正規の事務職員の有無

筑波大学、広島大学、大阪外国語大学の共通点は、学生用ソフト購入予算があることと、正規の事務職員がついていることである。すなわち、提供できる新たな情報と、情報提供スタッフを兼ね備えることによって、学生等に対応できる体制を整えていることが特徴である。

言語文化部等を持つ大学での状況

外国語教育担当独立組織を持つ場合のもう一方のケース、すなわち言語文化部等を持っている大学での状況を見てみよう。いわゆる旧帝大のうち、利用者数を回答したのは、東京大学と名古屋大学のみである。これら2大学での使用者数は、先の金沢大学での使用者数をかなり上回っている。*TOEIC Newsletter* 68号（October, 1999）に掲載された近藤健二教授に対するインタビュー記事によると、名古屋大学では平成9年度から学外検定試験の結果を単位認定しており、その際には筆記ならびに口述による学内試験を課すという教官側の積極的な取り組みを行っている。また、東京大学については、かつてNHKの番組の中で、教養語学教育の改革について取り上げられたこともあり、そのような授業を受ける学生の語学学習への姿勢が、このような数字に表れてきているのだろう。しかし、東北大学を除く（東北大学からは回答をいただけなかった）他の4大学のうち九州大学が学生用ソフト購入予算ありと回答したが、他の3大学はその措置をとっていないようである。また、事務職員を何らかの形で持っているものの、これは主にLL教室への対応措置であると推測される。いずれにしても、外国語センターを備えた大・中規模国立大学に比較して、大規模国立大学であって

も教育者組織としての言語文化部は、名古屋大学を除いては、授業以外での学生の自学支援体制としては機能していないと言える。

自習室を持つ大学での状況

次に、外国語独立教育組織は持たないが自習室は備えているという大学を見てみる。表1では、大阪外国語大学から愛媛大学までが検討対象であるが、大阪外国語大学と東京大学はすでに扱ったので、香川大学からの集団が検討対象である。このうち、宇都宮大学と一橋大学は、LL教室を空き時間に開放するかたちで学生の自習に対応している。その意味では、お茶の水女子大学もこの集団に入れて考えてよい。この集団では、学生用ソフト購入予算を用意しているところが多く、職員も常駐している。しかし、職員の身分が、パート、助手となっているので、必ずしも学生への十分な対応を期待できないところであろう。また、ここに並ぶ大学は、小、中規模の大学ばかりである。「1-2類別」で②にあたる規模の大学で、ソフト購入予算を施し、自習室を備えているという点では、香川大学は評価されてよい位置にあると言える。しかし、逆に考えれば、香川大学の規模で外国語自習室が必要なのかという議論も可能である。それに対しては、お茶の水女子大学の状況が参考になる。お茶の水女子大学では、昼休みにLL教室を開放するだけで年間750名余の利用者数が報告されているが、年間利用者数だけで比較すれば、金沢大学、名古屋大学を上回る数字であり、香川大学が学ぶべき点があるものと思われる。

その他25大学

以上の大学を除く25大学は、外国語教育独立組織がないこと、外国語自習室がないことの2点で、一つのグループを形成している。この中には、神戸大学、新潟大学といった大規模大学や、「1-2類別」で③にあたる大学が多数含まれている。外国語自習支援体制という視点で考えれば、上で扱った、九州大学、北海道大学、京都大学、大阪大学もこのグループに入れて考えてよい。この集団では、補佐員を採用していても、それはLL教室の技術的支援という意味合いが強いものと考えられる。そして、回答をいただいた国立大学のうち半数以上がこのグループに属すことから、多くの国立大学の自学自習支援体制への取り組み方は、かなり消極的であると言わざるを得ないようである。

3-1-3 私立大学での状況（外国語センター運営が第1条件ではない）

次に、私立大学での取り組みを見てみよう。表1と同じ項目について同じ要領で基礎データを配列したものが表2である。なお、本表では、各学部別に回答があった日本大学については、国際関係学部と文理学部について情報提示している。利用状況については、これら2学部はそれぞれが大学として示す数字に近いものを示しているなので、ここでは、これら2学部を2大学と見て検討することにする。

表2：外国語教育施設利用・運営状況（私立大学）

大学名	1-2 類別	2	2類 別	5	6	7-1	17-1 使用者 数	10	11	12- 1	12-2
関西大学	⑥	1(洋語中)	②	1	12000	041	292.7	1	1	1	4(パート職員)
日本大学(国際)		1	②	1	11000	030	366.7	1	2	1	4(副手)
獨協大学	③	1	②	1	06223	020	311.2	1	1	1	1
立命館大学	⑥	1	②	1	00300	008	037.5	1	2	2	
関西学院大学	⑥	1	②	1		030		1	1	1	1
学習院大学	②	1	②	1		030		2	2	1	3.4(助手、アルバイト)
上智大学	④	1	②	2				2	2	2	
同志社大学	⑥	1	②	2				2	2	2	
関西外国語大学	②	2		1	25000	041	609.8	1	1	1	1
明治大学	⑥	2		1	22000	082	268.3	1	2	1	1
津田塾大学	①	2		1	20000	053	377.4	1	1	1	1
青山学院大学	⑥	2		1	14740	059	249.8	1	2	1	1.4(嘱託、アルバイト)
中央大学	⑥	2		1	11803	020	590.2	1	2	2	
中京大学	⑤	2		1	06000	060	100.0	1	2	1	1
福岡大学	⑥	2		1	04414	012	367.8	1	2	1	1
慶応義塾大学	⑥	2		1	01994	016	124.6	2	2	2	
明治学院大学	⑤	2		1	01500	036	041.7	1	2	2	
国際基督教大学	①	2		1	00984	015	065.6	2	2	2	
日本大学(文理)		2		1	00300	010	030.0	2	2	1	2.4(副手)
法政大学	⑥	2		1		050		1	2	1	1.4(臨時職員)
神田外国語大学	①	2		2				2	2		

私立大学では、大学の規模に関係なく、自習室の設置校が非常に多い。外国語教育独立組織をもつかどうかで考えると、外国語センターのような組織をもつ8大学のうち6大学で自習室が設置されていて、そのうち4大学から利用者数の回答が出ている。うち2大学では、大阪外国語大学での年間利用者数に近い数字を示しているし、「1ブースあたりの利用者数」では、3大学が大阪外国語大学での数字を大きく上回っていて、1大学は広島大学の示す数字を上回り、2大学ではそれに近い数字を示している。外国語センターを持たない13大学のうち、自習室を設置している大学は12校である。そのうち、大阪外国語大学での年間利用者数を上回る大学が4大学、大阪外国語大学での「1ブースあたりの利用者数」を上回る大学が6大学という状況である。

国立大学での状況を見たときには、外国語センターがあることが自習室の利用状況を決める第一要因であるような印象を受けたが、私立大学でのこのような利用状況を見ると、外国語教育独立組織をもつか否かとは別の条件が作用していると考えなければならない。すなわち、学生用教材の購入予算が組まれているか、正規職員が配置されているかどうかの2条件が、重要な要因であると考えられる。また、教材の貸し出しをしている大学も多い。本稿の筆者のうち永尾は、かつて関西外国語大学で非常勤講師を務めた経験がある。関西外国語大学では、外国語教育資料センターを持ち、常時4～5名のスタッフが学生、教職員に対応していた。テープ及びビデオ教材が7,000点以上あると伺った記憶がある。資料の貸し出しもしていたので、その管理には常駐スタッフは欠かせないだろう。学生が常時出入りしていたことを鮮明に覚えている。

3-1-4 自習室運営の第1要件

ここで、表1と表2の情報を一覽提示した表3を見ていただこう。これを見ると、私立大学での自習支援体制への取り組みの積極性と、一部の大学を除いて大半の国立大学ではその取り組みが大幅に遅れていることが明らかになる。(ただし、本アンケートにご協力いただいた私立大学は、私立大学の代表校といってよい大都市圏の有名大学のみであるため、その結果を国立大学の結果と単純に比較することが難しいことに、注意しておく必要があるだろう。)

広島大学等の状況、および私立大学での状況を合わせて考えてみると、自学自習支援体制の整備という取り組みを進める上では、学生に提供できる情報を出来るだけ多く用意し、その情報を学生に与えられる、質の高い補佐員を確保することが、何よりも大切なようである。自習室に用意されるソフトが教材ソフトのみであるという回答が、アンケートへの記述回答の中に散見された。これは、自習室の位置付けが教官側に向いていることを示している。

香川大学でも、外国語自習室担当のパート職員を2名、全学教養予算の中で確保しているが、職員の仕事は、現在のところどちらかというと、対学生というより対教官の仕事内容になっている。学生用ソフト購入予算も長年確保してきているが、教官側の意見のみに基づく購入状況である。時には、学生にも購入希望をとったりして、学生の興味・関心を喚起しながら運用していかなければ、必ずしも、学生本位の自習室にはならない。広島大学等でみられる事務職員としての職員確保を全学に対して働きかけて、学生に対して情報提供を行える体制を整える必要がある。

何を情報として提供していけばよいかということを考えるきっかけになるのが、平成11年3月31日付の「文部省告示第64号」による要請であろう。

3-1-5 自学自習支援体制整備のもう一つの要件

自習室運営体制に加えて、筆者が今回のアンケート調査を通して知りたかったもう一つの点は、学外資格・検定試験結果の単位認定についての各大学での対応である。これは、平成11年3月31日付の「文部省告示第64号」で各大学に検討を求められた件であった。香川大学でも、4月の教養教育委員会での説明があり、12年度からの実施を目指した検討を進めるよう外国語部会に求められた。筆者は、5月に開催された「中・四国教養教育研究会」の外国語分科会でも各大学の取り組みを質問してみたが、そのときの回答では、広島大学と徳島大学から、英検、TOEFL、TOEICの3試験の認定方法に関する検討結果が紹介されたが、回答してくれるほかの大学では、従来どおり英検のみを認定するという回答ばかりであった。もう少し広く意見を伺っておこうと考え、他の地域の国立大学と大都市圏の私立大学での取り組みを調査することにした。なお同様の調査が、1998年度の単位認定実施概況アンケート調査というかたちで、すでに広島大学外国語教育研究センターでも行われていて、昨年度の「中国・四国地区大学教養教育研究会」で同センターから報告された内容を、「香川大学教養教育研究」第4号で報告している。本稿での調査は、それに比べると調査範囲が狭いという問題があるが、1999年度の実施状況、検討状況を知るといいう意味でも、それに続くものとして位置付けることが出来よう。

前節同様ここでも、国立大学と私立大学との間に対応面でどのような違いが見られるかを中心に観察してみる。表4を見ていただきたい。ここでアンケートから取り出した各列項目は次のとおり：

「14」：英検、TOEFL、TOEICなどの教材が備えられているか (1：はい 2：いいえ)

- 「15」 : 英検、TOEFL、TOEIC の検定結果を単位認定しているか (1 : はい 2 : いいえ)
 「16」 : どの検定を単位認定しているか
 「17」 : 検定試験の対策授業を開設しているか (1 : はい 2 : いいえ)

表3 : 外国語教育施設利用・運営状況一覧

大学名	国私	1-2 種別	2	2類 別	5	6	7-1	17-1 利用者 数	10	11	12- 1	12-2
広島大学	国	⑤	1	②	1	35000	108	324.1	1	2	1	1,3
千葉大学	国	④	1	②	1	18120	080	226.5	1	2	1	4(非常勤職員)
関西大学	私	⑥	1(準備中)	②	1	12000	041	292.7	1	1	1	4(パート職員)
日本大学(国際)	私	⑥	1	②	1	11000	030	366.7	1	2	1	4(副手)
筑波大学	国	③	1	②	1	09435	016	589.7	1	2	1	1,2
獨協大学	私	③	1	②	1	06223	020	311.2	1	1	1	1
名古屋大学	国	④	1	①	1	00434	006	072.3	1	1	1	2(助手)
金沢大学	国	③	1	②	1	00300	006	050.0	1	1	2	
立命館大学	私	⑥	1	②	1	00300	008	037.5	1	2	2	
関西学院大学	私	⑥	1	②	1		030		1	1	1	1
学習院大学	私	②	1	②	1		030		2	2	1	3,4(助手、アルバイト)
琉球大学	国	③	1	③	1		005		1	2	1	2(2名), 4(パート職員2名)
お茶の水女子大学	国	①	1	③	1(LL教室を昼休みに開放)	00750	052	014.4	1	1	1	4(事務補佐員(主に院生))
九州大学	国	④	1	①	2				1	2	1	1(非常勤)
北海道大学	国	④	1	②	2				2	2	1	2
京都大学	国	⑤	1	①	2				2	2	1	1,4(時間雇用職員)
大阪大学	国	⑤	1	①	2				2	2	1	4(事務・技術補佐員)
上智大学	私	④	1	②	2				2	2	2	
同志社大学	私	⑥	1	②	2				2	2	2	
関西外国語大学	私	②	2		1	25000	041	609.8	1	1	1	1
津田塾大学	私	①	2		1	20000	053	377.4	1	1	1	1
明治大学	私	⑥	2		1	22000	082	268.3	1	2	1	1
青山学院大学	私	⑥	2		1	14740	059	249.8	1	2	1	1,4(嘱託、アルバイト)
大阪外国語大学	私	①	2		1	13000	058	224.1	1	2	1	1,3
中央大学	私	⑥	2		1	11803	020	590.2	1	2	2	
中京大学	私	⑤	2		1	06000	060	100.0	1	2	1	1
福岡大学	私	⑥	2		1	04414	012	367.8	1	2	1	1
東京大学	国	⑥	2		1	03000	034	088.2	1	2	1	2
慶応義塾大学	私	⑥	2		1	01994	016	124.6	2	2	2	
明治学院大学	私	⑤	2		1	01500	036	041.7	1	2	2	
国際基督教大学	私	①	2		1	00984	015	065.6	2	2	2	
日本大学(文理)	私	①	2		1	00300	010	030.0	2	2	1	2,4(副手)
香川大学	国	②	2		1	00200	010	020.0	1	2	1	4(パート職員)
宇都宮大学	国	①	2		1(授業のない時間帯のLL)	00350	046	007.6	2	2	1	4(LL補助要員(学生アルバイト))
一橋大学	国	②	2		1(LL教室使用)	00100	010	010.0	1	2	1	4(助手)
佐賀大学	国	②	2		1(ドイツ語教室のみ)	00040			1	1	1	4(非常勤職員)
法政大学	私	⑥	2		1		050		1	2	1	1,4(臨時職員)
岐阜大学	国	②	2		1		006		2	2	1	4(非常勤職員)
愛媛大学	国	③	2		1				2	検計中	2	
宮崎大学	国	①	2		2				1	1	2	
岩手大学	国	②	2		2				1	1	2	
鳥取大学	国	①	2		2				1	1	1	4(事務補佐員)
山形大学	国	③	2		2				1	2	2	
岡山大学	国	④	2		2				1	2	1	4(日々雇用職員)
熊本大学	国	③	2		2				1	2	1	4(非常勤職員)
福島大学	国	①	2		2				2	2	1	4(事務補佐員)
神戸大学	国	⑤	2		2				2	2	1	4(技術補佐員)
弘前大学	国	②	2		2				2	2	2	
秋田大学	国	①	2		2				2	2	2	

新潟大学	国	④	2	2				2	2	2	
群馬大学	国	②	2	2				2	2	2	
静岡大学	国	④	2	2				2	2	2	
富山大学	国	②	2	2				2	2	2	
滋賀大学	国	①	2	2				2	2	2	
和歌山大学	国	①	2	2				2	2	2	
島根大学	国	②	2	2				2	2	2	
徳島大学	国	②	2	2	2(LL教室を昼休み開放)			2	2	2	
長崎大学	国	③	2	2				2	2	2	
神田外国語大学	私	①	2	2				2	2		
山梨大学	国	①	2	2				2		2	
埼玉大学	国	③	2	2				2	2		
信州大学	国	③	2	2				2			
三重大学	国	②	2	2							

表4：学外資格・検定試験の単位認定に関する対応

国私	大学名	14	15	16	17
国	北海道大学	2	2		2
国	弘前大学	2	1	英検、工業英検、仏検	2
国	秋田大学	2	2		2
国	山形大学	2	2		2
国	岩手大学	2	2		2
国	福島大学	1	2		2
国	新潟大学	2	1	英検、仏検	2
国	宇都宮大学	1	2		1
国	筑波大学	1	2	現在検討中	2
国	千葉大学	1	1	英検、TOEFL、TOEIC、仏検	1
国	東京大学	1	2		2
国	お茶の水女子大学	1	1	英検	2
国	埼玉大学	2	1	英検(なお来年からTOEFL TOEICも)	1
国	群馬大学	2	1	英検(1級、準1級)なおTOEFLは検討中	2
国	一橋大学	1	2		2
国	山梨大学	2	2		2
国	静岡大学		平成12年度より	英検	1
国	信州大学		1	英検、TOEFL、TOEIC、国連英検	1
国	岐阜大学	2	2		2
国	富山大学	2	2		2
国	金沢大学	1	2		1
国	名古屋大学	2	1	英検、工業英検、国連英検、TOEFL TOEIC、ケンブリッジ英検	2
国	三重大学		2		
国	滋賀大学	2	2		1
国	京都大学	1	2		2
国	大阪大学	1	2		2
国	大阪外国語大学	1	2		2
国	神戸大学	1	2		2
国	和歌山大学	2	1	英検	2
国	岡山大学	1	1	英検、国連英検、TOEFL TOEIC、独検、仏検、HSK漢語水平考	2
国	広島大学	1	1	英検、TOEFL TOEIC	1
国	鳥取大学	1	2(検討中)		2
国	島根大学	2	2		1
国	徳島大学	1	1	英検 TOEFL、TOEIC 独検、仏検、中検、HSK	2
国	香川大学	2	1	英検	2
国	愛媛大学	2	2		2
国	九州大学	1	2		2
国	佐賀大学	1	2		2
国	長崎大学	1	2		1
国	熊本大学	1	2		1
国	宮崎大学	1	1	英検	1
国	琉球大学	1	1	英検(TOEFL TOEICについては現在検討中)	1
私	慶応義塾大学	1	1	授業の一環として受講し、その点数に応じて成績評価	2
私	明治大学	1	2		2
私	法政大学	1	2		1
私	青山学院大学	1	2		1(経済学部のみ)
私	学習院大学	1	2		1
私	明治学院大学	1	2		1(課外講座)

私	日本大学(文理)	1	2	H12年度から単位認定予定	2
私	日本大学(国際)	1	1	英検準1級以上・英語Ⅰ・英語Ⅱ(各2単位)認定	1(課外有料講座)
私	津田塾大学	1	2		2
私	中央大学	1	2		2
私	国際基督教大学	2	2		2
私	上智大学	2	2	認定する方向で検討中	2
私	神田外国語大学	2	2		2(課外講座)
私	獨協大学	1	2(H12年度から認定予定)	検討中	2(語研で有料講座)
私	中京大学	1	2		1
私	関西大学	1	2		2
私	関西学院大学	1	1	英検準1級以上を2単位	2
私	同志社大学	2	2		1
私	立命館大学	1	2		1(課外講座)
私	関西外国語大学	1	2		2
私	福岡大学	1	2		2

前章でも触れたように、単位認定という実施面だけを考えると、「英検」の認定を中心にして国立大学の方が私立大学よりも積極的に実施している様子がわかる。名古屋大学と岡山大学では他大学に比べて多様な検定試験を認定している。これは、先の広島大学外国語センターの報告にも見られる傾向である。その広島大学報告との違いは、おそらく文部省通達を受けた結果として、検討中の大学が増えたこと、実施に消極的であった大学が検討を始めていることである。

しかし、学生の受験をサポートする体制という面から考えてみると、国立大学優勢の見方は少し変わってくる。一つは、前節で扱った自習室の充実度である。そして、表4でも、項目「14」の教材設置数を見てみると、国立大学では約半数の大学で備えているが、私立大学では、殆どの大学で備えている。また、項目「17」の対策授業の開設状況を見ると、国立大学では13大学で対応しているのに対して、私立大学では課外授業を含めると約半数の大学が対応している。次章の学生アンケート分析でも取り上げることになるが、香川大学の学生意識を観察してみると、このような検定試験に関する情報を持たない、情報を求めようとしない、情報が与えられるのを待っているという姿勢が多分に伺われる。大学によって学生の意識は異なるとしても、香川大学の状況では、情報を与えながらサポートしていく体制をとらなければ、単位認定制度は制度上のお題目で終わってしまう可能性が極めて高いといわざるを得ない。

TOEIC Newsletter 68号 (October, 1999) で TOEIC IP (団体受験) 実施大学・短大一覧を見ると、実施211校中、国立大学27校、公立大11校に対して、私立大学では173校でこの団体受験を実施している。課外授業による有料講座であっても、自分が通う大学でその試験が実施される場合の学生の意識度は、単に認定制度を説明するだけの場合よりは格段にあがるはずである。このように、検定試験のサポート体制全般ということを考えると、国立大学では更に検討しなければならない点があるように思われる。

また、私見であるが、来年度からのカリキュラム改革を手がけながら、この単位認定制度について考えさせられた点は、なぜ教養教育の英語科目で単位認定しなければならないのか、という点である。TOEFL および TOEIC を取り出すまでも無く、例えば「英検」についてのみ考えてみても、香川大学の学生の現状から見て、「英検準1級」および「英検1級」を取得して入学する学生、教養教育科目受講中に取得できる学生が果たしてどれくらいいるのかを考えたとき、この制度の問題点を強く認識させられる。「英検準1級」の基準は「大学教養修了程度」、「英検1級」のそれは「大学卒業程度」と謳われているが、現実はどうだろうか？ ごく普通に教養課程を修了した学生、またごく普通に大学を卒業した者の中に、果たして準1級、1級を取れる者がどれほどいるだろうか？ この「基

準」ははなはだしく現実からかけ離れたものなのである。そうなってくると殊のほか、準1級・1級合格を教養教育のみの英語科目の単位に置き換えることには相当な無理があり、理想ばかりを追い求めることになり、それによって学生のやる気をかきたてることは極めて難しく、結局、格好ばかりの「お題目制度」に終わりがねない。せめて、級の取得期限を2年から4年に引き伸ばすべきではなかろうか。

3-2 学生アンケート

2章で、学生アンケート結果の項目別の検討を行ったが、3. 2節では、以下に示す7点について、アンケート結果を横断的に検討し、学生の英語学習への意欲と、自学自習支援体制に向けた学生の意識を探ってみたい。なお、この学生アンケートは、平成11年10月末に教養教育外国語授業の中で行ったものであり、回答者は1・2年生がほぼ半数ずつの割合になっている。

3-2-1 自己診断と学習意欲

表5は、自分の英語力(回答項目1)と学習意欲(回答項目2)に関する回答をまとめたものである。

表5：自己診断と学習意義の関係

(1)	(2)	教育	法	経済	農	工	計
未記入	1		1 (1%)				1
1	1	9 (11%)	12 (13%)	10 (9%)	4 (4%)	5 (6%)	40 (8%)
1	2		2 (2%)	3 (3%)	1 (1%)	1 (1%)	7 (2%)
2	未記入		1 (1%)				1
2	1	40 (48%)	49 (52%)	39 (37%)	41 (44%)	25 (27%)	194 (42%)
2	2	4 (5%)	9 (9%)	8 (8%)	6 (7%)	4 (4%)	31 (6%)
3	1	23 (27%)	12 (13%)	30 (28%)	27 (29%)	36 (39%)	128 (27%)
3	2	8 (9%)	9 (9%)	16 (15%)	14 (15%)	17 (18%)	64 (14%)
		84	95	106	93	88	466

ここでアンケートから取り出した各列項目は次のとおり：

(1) : 英語が得意か (1: 得意、 2: 普通、 3: 苦手)

(2) : 英語力を上げたいか (1: はい 2: いいえ)

「教育」、「法」、「経済」、「農」、「工」: 学部別の集計結果

「計」 : 学部別集計結果の小計

項目<1>で「得意」と回答した学生が教育・法・経済では10%を超える一方で、農・工の理系学生では前者の約半数の5%前後となっている。なお、各学部生とも「得意」であり「意欲が無い」という回答は極めて少ない。この「得意」と回答した学生層には着実に実力をつけさせることが望まれる。項目<1>で「普通」と答えたのは、法で6割以上、教育および農で5割以上、経済で5割弱であり、これら4学部ではこの層に入る学生が最も多くなっているが、工学部では3割強であり、他学部に比べて1割程度少ない。項目<1>で「苦手」と答えたのは、法で2割、教育で3割強、経済および農で4割強、工学部で5割強となっていて、特に工学部生の苦手意識が強く出ている。また、

各学部とも、「得意」、「普通」、「苦手」のいずれ層でも、「実力をつけたい」と考えている学生の方がそうでない学生より非常に多く、全体では8割弱の学生が「実力をつけたい」と答えている。これは教官側が受け取っている印象とはかなり異なる結果になっているのではないだろうか。このような学習意欲を高めて実力養成を図る方法を提示できる授業が、求められているようだ。

3-2-2 学習の意義

前章でも提示したが、質問事項第5項の「大学で英語を学習する意義」についての回答を再度まとめたのが表6である。なお、この項は2つまで回答可能とした。質問項目は、①外国人と友達になりたい。②留学したい。③将来の仕事に備えて。④資格を取得したい。⑤なんとなく好き。⑥一般教養として。⑦その他（記述回答）。

表6：学習の意義

〈5〉	教育	法	経済	農	工	計
①	8 (10%)	7 (7%)	5 (5%)	11 (12%)	10 (11%)	41 (9%)
②	9 (11%)	12 (13%)	3 (3%)	7 (8%)	3 (3%)	34 (7%)
③	20 (24%)	28 (29%)	27 (25%)	36 (39%)	47 (53%)	158 (34%)
④	15 (18%)	22 (23%)	17 (16%)	8 (9%)	14 (16%)	76 (16%)
⑤	13 (15%)	9 (9%)	8 (8%)	8 (9%)	6 (7%)	44 (9%)
⑥	54 (64%)	63 (66%)	76 (72%)	55 (59%)	41 (47%)	289 (62%)
⑦	7 (8%)	6 (6%)	9 (8%)	14 (15%)	9 (10%)	45 (10%)

全体の状況および工学部を除く各学部の状況とも、⑥（一般教養として）の回答率が非常に高い。これは、英語の修得が大学生に求められる素養として必須のものであると自覚しつつも、①項から⑤項の自己啓発的動機に比べると、社会環境からの要請を認める受身的動機ともいえるので、少々気になる点である。工学部では、⑥よりも③（将来の仕事に備えて）の回答率の方が少々高い。農学部生も高い回答率を示している。将来の仕事とは、理科系学部では半数以上の学生が修士課程に進むという周りの大学での状況を念頭におきながら、専門課程での授業で英語が必要となることも見通した上での回答と考えることが出来る。また、文科系学部の学生でも、3割弱の学生は何らかの形で将来必要になると考えているようであり、学生は決して社会的要請に対して無頓着ではないと言えそうである。留学を考えている学生の率は、各学部とも予想外に少ないようである。また、①の回答率も少ない。同程度の率になっているのが、⑦の回答である。これは、前章でも述べたように、ほとんどが単位取得だけを目的とした学生の回答である。このような回答を出す学生の対極にある層、すなわち何よりも運用能力向上を目指す学生層（①と回答したもの）とが同程度の率を示していることは、授業運営の難しさを窺わせる。資格試験を意識した回答は、各学部とも、2割前後の率を示している。

次に、この意義に関する回答と、前節の意欲に関する回答とを同時に示して、学習意欲がいずれの意義と結びついているのかを検討してみる。

それを示すのが表7である。ここで取り出した項目は、

〈2〉：英語力を上げたいか

(1：はい 2：いいえ)

〈5〉：学習の意義

(①～⑦は表6の解説を参照)

表7：学習意欲と大学で英語を学習する意義（未記入者を除く）

(2)	(5)	教 育	法	経 済	農	工	計
1	①	9	6	5	11	9	39
1	②	9	12	3	7	3	34
1	③	20	26	23	33	43	145
1	④	14	21	15	8	14	72
1	⑤	12	8	7	8	5	40
1	⑥	45	47	56	39	27	214
1	⑦	6	2	4	8	3	23
2	①		1			1	2
2	③		2	4	3	4	13
2	④	1	1	2			4
2	⑤	1	1	1		1	4
2	⑥	9	16	20	16	14	75
2	⑦	1	4	5	6	6	22

自己診断に基づく英語力は別にしても、学部の別を問わず、学習意欲の高い学生は<5>の①から⑤の選択者数のほとんどを占めていることが分かる。特に②の「留学希望」はすべて学習意欲の高い学生で占められている。また、④の資格取得希望者については、学習意欲の高い学生の中で考えれば、そのうち2割の学生が取得を希望していることになる。他大学との比較が出来ないため、この数字の多寡を議論することはできないが、これだけの学生が実際に資格取得に取り組むならば、大学の教養英語の授業状況も大きく様変わりするに違いない。最も身近な位置に目標を設定できることが、語学学習には必要不可欠な条件だからだ。その意味では、④の選択者数をもっと多くなることを求めていく必要があるだろう。また、⑦を選択した学生が、意欲の高い学生で6%程度、意欲の低い学生で25%程度いる。英語を学習すること自体を拒絶したい学生がこの程度いるという事実は、教官側が強く認識しておくべきことである。

3-2-3 学習意欲と自習室認知度

表8は、学習意欲と自習室認知度についてまとめたものである。ここで取り出した項目は次の項目である。

(6) : 外国語自習室の存在を知っているか (1 : はい 2 : いいえ)

表8：学習意欲と自習室認知度（未記入者を除く）

(6)	(2)	教 育	法	経 済	農	工	計
1	1	28 (33%)	21 (22%)	25 (24%)	13 (14%)	17 (19%)	104 (22%)
	2	3 (4%)	6 (6%)	12 (11%)	4 (4%)	7 (8%)	32 (7%)
2	1	44 (52%)	54 (57%)	54 (51%)	59 (63%)	49 (56%)	260 (56%)
	2	8 (10%)	14 (15%)	15 (14%)	17 (18%)	15 (17%)	69 (15%)

外国語自習室を知っていると回答した学生は、全体の約3割弱の学生に過ぎない。従って、7割強の学生は外国語自習室の存在すら知らないわけである。しかも、学習意欲の高い学生のうち3分の2以上の数の学生が気づいていない。理由として、2点が考えられる。一つは、「外国語自習室」の名称と実質的機能との乖離である。自習室は、その面積の大半がLL教室設備で占められており、本来の自習施設は昨年度の自習室改修工事に伴って事務室横に移動されたので、学生の目に触れにくい配置になってしまった。もう一つの理由は、学生への情報伝達不足である。今年度の「外国語自習室だより」には、設備更新の紹介は掲載されたが、多くの学生はLL設備の更新として受け取ったようである。自習用ブースの具体的な使用方法、ブースで使用可能なソフトの紹介等に努める必要がある。昨年度の自習室改修で、自習用ブースとしてパソコン10台を設置した。しかし、これまでに蓄積されてきた自習室用ソフトはその大半がカセットテープとビデオテープである。そこで、今年度は自習用ソフト充実予算がついたので、急遽購入したが、これを継続してより一層のソフト充実に努める必要がある。また、ハード面でも、ブース10台で十分なのかも検討の必要があるだろう。更に、授業を通じた情報提供を考える必要もあるだろう。教養教育英語総コマ数の80%以上を非常勤講師に依存している香川大学の現状では、非常勤講師の先生方にも授業を通して自習室の紹介等を行っていただく必要がある。

3-2-4 自習室認知度と使用度

この件についてまとめたのが表9である。表9を見ると、自習室のソフトないしは機材を利用したことのある学生は調査対象全学生中16%程度、両方を利用したことのある学生は1割程度となっている。表8で見た認知度の半数程度の数字である。自習室の年間延べ利用者数が約200人であるから、1,000人単位の利用者数を目指すならば、1・2年生の8割程度の学生が何らかの形で利用経験を持つ状態にいたる必要があることになる。やはり、授業を通して情報提供を行うことを真剣に検討していかなければならないだろう。なお、整理した項目は、左列から順に、

- (6) : 外国語自習室があることを知っているか (1 : はい 2 : いいえ)
 (7) : 自習室の教材を利用したことがあるか (1 : はい 2 : いいえ)
 (8) : 自習室の機材を利用したことがあるか (1 : はい 2 : いいえ)

表9 : 自習室使用度

(6)	(7)	(8)	教育	法	経済	農	工	計
1	未記入	未記入	3	1	18	3	1	26
	1	1	11	5	19	1	8	44
	2	未記入	1	11		8	1	21
	2	1	16	1			13	30
	2	2		9				9
2	未記入	未記入	50	64	65	81	65	325
	2	未記入	2	4	1			7
	2	2			3			3

3-2-5 学習意欲と資格試験受験経験

表10は、資格試験の受験経験と現在の学習意欲とを並べたものである。取り出した項目は、左列から順に、

- (10) : いずれかの資格試験を受験した経験があるか (1: はい 2: いいえ)
 (2) : 英語力を上げたいか (1: はい 2: いいえ)

表10: 資格試験受験経験と現在の学習意欲

<10>	<2>	教育	法	経済	農	工
1	1	56 (67%)	55 (58%)	53 (50%)	49 (53%)	41 (47%)
	2	5 (6%)	10 (10%)	10 (9%)	11 (12%)	10 (11%)
	未記入		1 (1%)			
2	1	15 (18%)	19 (21%)	24 (23%)	22 (24%)	25 (28%)
	2	7 (8%)	9 (9%)	17 (16%)	10 (10%)	12 (14%)
	未記入					
未記入	1	1 (1%)		2 (2%)	1 (1%)	
	2		1 (1%)			
	未記入					

受験経験だけを見ると、教育・法で7割程度、経・農・工で6割前後の学生が資格試験の受験経験を持つ。現在の学習意欲の低い学生も半数程度は受験経験をもつ。学習意欲の高い学生だけを見ると、教育・法で8割程度、経済・農で7割程度、工で6割程度の学生が受験経験を持つ。いずれにしても、かなり多くの学生が資格試験の受験経験をもつことがわかる。

次に示す表11は、英語学習意欲と受験希望資格試験名とをならべたものである。整理した項目は、左列から順に、

- (2) : 英語力を上げたいか (1: はい 2: いいえ)
 (12) : 卒業までに受験したい試験名 (複数回答可能)

表11: 学習意欲と受験希望資格試験名

<2>	<12>	教育	法	経済	農	工
1	試験名未記入	2	1	1	5	2
1	英検	24 (29%)	23 (24%)	24 (23%)	21 (23%)	21 (24%)
1	TOEIC	25 (30%)	33 (35%)	16 (15%)	13 (14%)	11 (13%)
1	TOEFL	10 (12%)	19 (20%)	7 (7%)	12 (13%)	6
1	国連英検	2	5		2	
1	通訳案内業	1	1			
1	工業英検					5
1	できるだけ沢山	1				
1	未記入	27 (32%)	19 (20%)	39 (37%)	32 (34%)	27 (31%)
2	試験名未記入			1		
2	英検	2	2	3	3	
2	TOEIC		1	3	3	
2	TOEFL				1	1
2	未記入	10	17	21	17	21

全体的に見て、英検の受験意欲が高い。これは、中学ないしは高校のときに受験した経験をもつ学生が多く、その継続として目標設定しやすいものであるからだろう。ただし、準1級ないしは1級を受験したいと答えている学生は、全体でも3名のみであるから、多くの学生は2級を現時点（大学1・2年次）の目標地点と考えているようだ。経済界を中心に高い評価を得ている TOEIC の受験希望者は、英検のそれと同程度になっている。ただし、経済学部生の希望者が農・工と同程度であることは少し気がかりでもある。教養教育1・2年次での意識であるにしても、法学部生の意識と比較すると、低い印象は否めない。

3-2-6 資格試験教材を入れたら自習室を利用するか

この件についてまとめたものが表12である。取り出した項目は、

- (14) : 資格試験教材を入れたら自習室を利用するか (1 : はい 2 : いいえ)
 (12) : 卒業までに受験したい試験名 (複数回答可能)

この表から、資格試験教材の自習室導入に学生はかなり好意的印象を持っていることが分かる。試験名の特定しないながらも自習室を利用したいと考えている学生を含めると、全体で少なくとも4割の学生は自習室で資格試験教材を利用したいと考えていることになる。これは、現在の自習室年間延べ利用者数の2倍の数字になる。また、自習室を利用しないと答えている学生が3割程度いるが、この数字を除いた7割の学生が自習室を利用する可能性のある学生である。とすると、現在の利用者数は、利用可能性まで含めて考えると、かなり低い数字に留まっていることになるだろう。ただし、英検1級の受験を考えている。

表12 : 受験意欲と自習室利用意欲

(14)	(12)	教育	法	経済	農	工	計
1	英検	25 (30%)	22 (23%)	21 (20%)	22 (24%)	17 (19%)	107 (23%)
1	TOEIC	24 (29%)	27 (28%)	17 (16%)	12 (13%)	9 (10%)	89 (19%)
1	TOEFL	10 (12%)	16 (17%)	13 (12%)	9 (10%)	4 (5%)	52 (11%)
1	国連英検	1	4		2		
1	通訳案内業	1	1				
1	工業英検					5	
1	できるだけ沢山	1					
1	未記入	13 (15%)	13 (14%)	24 (23%)	19 (20%)	15 (17%)	84 (18%)
2	英検	1	4	6	2	4	
2	TOEIC	1	7	2	4	6	
2	TOEFL		4		2	2	
2	国連英検	1	1				
2	未記入	26 (31%)	22 (23%)	35 (33%)	34 (37%)	35 (40%)	121 (26%)

学生1名は、自習室は利用しないと答えていて面白い。この学生は、アンケートの他の質問項目で、英会話学校等に通っていると答えている。明確な目的意識を持った学生は、自習室があっても無くても、何らかの方法で目的到達を目指すことの現れであろうが、充実したソフトを前にすれば、このような学生こそが積極的利用者になるはずである。

3-2-7 対策授業受講意欲

この件についてまとめたものが表13である。取り出した項目は、左列から順に、

- (16) : 資格試験の対策クラスを作れば受講するか (1: はい 2: いいえ)
 (12) : 卒業までに受験したい試験名 (複数回答可能)

表13: 受験意欲と対策授業受講意欲

(16)	(12)	教育	法	経済	農	工	計
1	英検	23 (27%)	20 (22%)	19 (18%)	19 (20%)	18 (20%)	99 (21%)
1	TOEIC	22 (26%)	26 (27%)	14 (13%)	14 (15%)	7 (8%)	83 (18%)
1	TOEFL	9 (11%)	15 (16%)	6 (6%)	12 (13%)	5 (6%)	47 (10%)
1	国連英検	2	5		2		
1	通訳案内業	1	1				
1	工業英検					3	
1	できるだけ沢山	1					
1	未記入	9 (11%)	12 (13%)	18 (17%)	22 (24%)	13 (15%)	74 (16%)
2	英検	3	5	8	5	2	
2	TOEIC	3	8	5	2	4	
2	TOEFL	1	4	1	1	3	
2	国連英検	1	1				
2	未記入	28 (33%)	23 (24%)	42 (40%)	31 (33%)	36 (41%)	160 (34%)

表12と表13との数字が必ずしも同値でなく、自習室利用意欲の方が対策授業受講意欲よりも若干高い数値を示している。これは、判断の揺れている学生が若干あることにもよるだろうが、対策授業に頼らず資格試験を自らの努力によって受験しようとする姿が現れていると考えることもできる。そうであれば、ある意味では好ましい結果といってよいのかもしれない。そのような学生意識を考えると、まず自学自習支援体制を整え、その後で対策授業の開講を検討してもよいことになる。それでも、全体の学生のうち4割程度の学生は、対策授業を受講したいと考えている。とくに英検とTOEICの対策授業については、標準的規模のクラスを設定するに十分な希望者数を見込めそうである。

(4) 英語教育の改善へ向けて—学生の意欲と大学の役目—

一語学教師である私の頭から常に離れることのない切なる疑問は、日本という国にたまたま生まれてきた人間は、なぜ全員子供の頃から強制的に英語を学ばねばならないかというものである。今まで盛んに外国語センターだ、自習室だ、英検だ、と喋り続けてきたが、このレポートをまとめてみて皮肉にも、私はまたこの疑問に悩むことになった。今回の調査ではっきりしたものはいろいろあった。日本の主だった大学がどのような外国語教育関連の施設を持ち、それを誰がどんな風に運営し、それがどの程度学生に利用されているかが明白になったことには、それなりに意義があったと思う。しかしながら同時に、香川大学1・2年生466人のうちの2割強の学生が英語力を伸ばしたいとは考えていないという点も明白となり、この点は外国語教師が今後もっと真剣に考えていかねばならない点であると感じている。学生の5人に1人が英語は要らないとはっきり答えるにもかかわらず、学びたくない人間にまで、「一般教養として必要だから学べ」と果たして大学はいえるのだろうか？また、「国際化、国際化！」と猫も杓子も叫ぶようになった日本だが、私たちの日常は本当にそこまで国際化している

のだろうか?? 私に言わせれば「ノー」である。少なくとも、英語が全く分からなくとも日本では十分に暮らしていける。また、「国際化時代なのだから英語くらい必要」ということばは、私の耳には極めて空虚に響く。大学のカリキュラムをもっとゆるやかにして学生に楽をさせようというのでは全く無い。ただし、「英語は自分には必要ない」とはっきり言う学生に英語を習得させる必要が果たしてあるのだろうかと考えるのである。そして、大学における真の意味での英語教育改善とは、その根幹—英語を必修にするか否か—を問い直すことから始めなければなるまい。こういう私の意見に耳を貸す教官はまだまだ少ないと思うが、私は大真面目である。

なぜ大真面目なのか、説明させて頂こう。現在、香川大学では、日本人教官によって行われている外国語の授業での1クラスの学生数は50~70人である。私はこの1年間、教養教育外国語部会(英語)委員としてカリキュラムの改変にあたり、無い知恵を振り絞って外国人教官によるクラスの学生数を、50~70人から25人に減らすことに何とか成功した。しかしながら、日本人教官によるクラスの学生数削減までは、とても出来なかった。1クラス50~70人というのは、外国語教育にとっては多すぎる人数なのである。もし香川大学で英語が必修でなくなり、アンケート調査で英語力を伸ばす必要は無いと答えた2割強の学生が、仮にどこかよそへ移ってくれたとしたら、どんなに授業がやりやすくなることか。英語必修制度は、いたずらにクラスの学生数を膨らませ、結局のところ授業の質の低下を招いてしまうのである。余談になるが、大学のみならず、日本の教育界全体に蔓延してしまっている英語崇拜(?)は、ついに幼い小学生にまで英語を義務付けてしまった。幼少期に一応かじらせてみて、もし好きならば続け、苦痛であれば途中で止めてもよい、という制度ならよい。ところが勿論そんな制度ではない。中学生から英語を学び始め、嫌で嫌で仕方の無い学生にまで、その先数年間は一緒に英語を押し付けてきた結果、結局どうなったか? 日本の中高生の英語力は顕著なまでに落ちてしまったのである。一つのクラスに英語を愛する子も憎む子も詰めこんでいるわけだから、授業のレベルは落ちていくのが当たり前である。英語嫌いの子は当然反発する。だが、“制度”であるから教師はそんな子もなだめすかして何とか引っ張っていかねばならぬ。そこで登場したのが“ゆとり”案と、文法にこだわらない、生徒の興味をそそる(?)英語教授法であった。現在香川大学に在籍する学生は、このような制度のもと、中学高校で英語を学んできた子らである。筆者が大学生であった15年前と比較して顕著なことは、日本人が唯一誇りとしていた(?)文法力まで、彼らが失いつつあるということと、オーラル・コミュニケーションにおいても期待したほどの成果が見られないこと、それとなぜか、英語固有の音を発することが出来にくくなってきていることである。(例えば、大学入試センター試験でかなりの成績をおさめた学生の中にseeをどうやってみても[i:]としか発音できなかつたり、例えばstoppedの語尾を平気で[to]と発音する学生が多数見られるのである。)中学高校での英語必修制度は、必然的に生じる1クラスあたりの生徒数の多さと、英語嫌いの子のご機嫌を伺いつつ彼らに英語を強いるという、不可思議なやり方が災いし、授業の質を低下させ、結局日本人の英語力を落としてしまったのである。これにこりずに小学生に英語を…というのだから泣きたくなくなる。

話を本論に戻そう。先ほどまで、英語力を伸ばしたいとは考えていない2割強の学生のことばかり喋ったが、ということは逆に、8割弱もの学生が英語力を(少なくともどちらかと言えば)伸ばしたいと考えている訳で、これは何とも嬉しい限りである。また、調査対象の学生のうち少なくともその4割が自習室を利用したいと考えていることが明らかになった。さて、彼らの願いをかなえてやるに

は、どうしたらよいか？ 3-1-3で述べたことの繰り返しになるが、次の2点が肝要となろう。

①外国語自習室に専任技師及び専任事務員を配置する。

②ソフトの購入には、学生の意見も反映させる。

機材の利用法に通じた専任技師と利用者をサポートする専任事務職員が必要となる。香川大学の場合は、専任事務員を2名配置しているが、これに技術的知識をもった職員を加えた体制をとることが望ましい。予算等に限りがある場合は、技術的知識をもった事務職員を配置してもよい。補助員としてTAに働いてもらうのも一案だ。尚、これらの職員の本務は教官のサポートではなく、学生のサポートであるという点をきちんとさせておく必要がある。目下、自習室の職員は外国語関係教官のアシスタントになってしまっているような感がある。先にも述べたが、この点はソフトの購入が実質的には教官サイドの意見にのみ基づいて行われているところにも反映している。時には学生の購入希望もとるなりして、学生本位の自習室となるよう心掛けねばならない。

但し、ここで教官が注意すべきことは、高価なソフト教材以外のものも立派な教材になりうる、ということである。筆者は学生時代に何とかリスニングの力を伸ばしたいと思い、英語担当教官に何か良い方法が無いかと尋ねたことがある。するとその教官は、ラジオの英語ニュースをテープに録音し、それを一言一句漏らさずディクテイトしてみなさい。毎日5分間分のニュースをディクテイトしたら、必ずリスニングの力が伸びますよとおっしゃった。このディクテーションを行うために、筆者は空き時間になれば外国語センターに足を運んだ。教官のことば通り、この作業はたいそう効果的で、今なお教官には深く感謝しているが、要するに、そのとき自習室で筆者が使用した教材はラジオのニュースを録音した数本のカセットテープにすぎなかったのである。昨今では教育業界が工夫に工夫を重ねた、至れり尽せりの教材が書店の店頭にひしめき合っている。それ自体は好ましいことなのだが、反面、学ぶ側は、こちらが教材を駆使すると言うよりも、教材から出される指示どおりに、どちらかと言うと受身の姿勢でくっついていくようになってしまっている。自分で作ったカセットテープ1本でも、外国語の自習は十分できるのだという原点に、たまには立ち返ることも、既製教材過多とも言える現代に生きる学生、教官の双方に必要なではないかと思われる。

アンケート調査で明らかにされた、自習室の存在を知っている学生が全体の3割弱しかいなかったという点については、外国語関係のすべての教官が反省しなければならない。学生の意欲の無さ、関心の薄さのみのせいにはできない。やはり教える側が授業等を通じてもっと積極的に自習室の存在とその意義を学生にアピールしていく必要がある。クラスで「外国語自習室だより」を配布するのもよい。尚、教養教育英語科目の8割以上は非常勤講師が担当している。これまでは、非常勤講師に対しては自習室関連の情報は特に流していなかったが、今後は大いに情報を提供し、授業の折に極力自習室のことを学生に宣伝してもらうことが必須となろう。また、筆者が大学学部時代に留学したハワイ大学において行われていたように、自習室を使用しないとできない宿題を授業で課すのも、学生を自習室になじませるよい方法となろう。

革新的な英語教育で名高い国際基督教大学は、実は自習室を持たない。また、検定試験対策授業を有料化することによって、意欲がさほど無い場合には対策講座を受講できないようにしている。自習室を持たず、誰もが自由に受講できる対策講座を持たないこの大学が、英語教育において全国一とも言えるレベルを維持し続けるのはなぜか？ その理由はズバリ、授業料が高く、少人数制で、能力別にクラスを編成し、相当なスパルタ教育を行っているからである。本学において、自学自習支援体制の

整備それ自体は、勿論歓迎すべきものである。けれどもその整備をゴールと考えるのではなく、それを基盤とし、その上に、長い年月をかけて、多角的に教育方法を改良していくことによって初めて、香川大学の外国語教育が実り多きものに生まれ変わるのではないだろうか。

[参考資料 I] データ類

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K
1	外国語教育用施設の利用状況に関するアンケート										
2	国立大学編										
3	4										
5	大学名	<1>	<1-2>	<2>	<3>	<4>	<5>	<6>	<7>	<7-2>	<8-1(LL室)>
6	北海道	12	2325	1	1	1,2,3,5(教材提示装置)		2			1,2
7	弘前	5	1240	2	1	1,3,5(CD, L.J. 教材提示装置, 16ミリ映写装置)		2			1,2
8	岩手	4	1225	2	1	1,3,5(OHP, MO)		2			1,2
9	秋田	3	876	2	1	1,2,3,4,5(SCS)		2			1,2
10	山形	6	1755	2	1	1,3,5(LD)		2			1,2
11	福島	3	960	2	1	1,3,4,5(OHP)		2			1,2
12	筑波	6	1860	1	1	1,3,4,5(CALLシステム)		1	9435	16 1,3,4	1,2,3,4(CALL教材)
13	宇都宮	4	973	2	1	1,2,3,5(ビデオ, CD)	1(授業のない時間帯のLL)	350	48	1,2,3,5(ビデオ, CD)	1,2,3,4(LD)
14	群馬	4	1195	2	1	1,1,3		2			1,2
15	埼玉	5	1630	2	2			2			
16	千葉	9	2490	1	1	1,2,3,4		1	18120	80 4(CALL)	1,2,3
17	東京	10	3353	2	1	1,2,3		1	3000	34 1,2,3	1,2
18	お茶の水	3	468	1	1	1,2,3,4	1(LL教室を自習室として昼休みに開放)	750	52	1,3,4	1,2
19	一橋	4	1020	2	1	1,3,5(OHP)	1(機器未設置のためLL教室を臨時使用)	100 10(検討中) 1,3(何れも検討中)			1,2,3
20	新潟	9	2177	2	1	1,2,3,4		2			1,2
21	富山	14	1445	2	1	1,2		2			1,2,3
22	金沢	8	1855	1	1	1,3,4,5(ビデオ, 液晶プロジェクタ)		2			1,2
23	山梨	2	780	2	1	1,3,5(ビデオ)		1	300	6 1,4	
24	信州	8	1930	2	2			2			
25	岐阜	5	1260	2	1	1,3,4		1	6		1,1,2
26	静岡	6	2140	2	1	1,2,3,4		2			
27	名古屋	9	2318	1	1	1,2,3,4		1	434	6 1,2,3	1,2,3
28	三重	5	1500	2	2	2					
29	滋賀	2	820	2	1	1,2,3,4,5(CD, LD)		2			1,2
30	京都	10	2806	1	1	1,3,5(LD, MD, Uマック教材提示装置, DAT)		2			1,2,3,4(LD)
31	大阪	10	2623	1	1	1,2,3		2			1,2,3
32	大阪外語	1	905	2	1	1,2,3,4,5(OHP, スライド, 教材提示装置, PC, DAT, MD)		1	13000	58 1,2,3,4,5(CD, LD)	1,2,3
33	神戸	10	2555	2	1	1,3,5(PC)		2			1,2,3
34	和歌山	3	890	2	1	1,2,3		2			1,2
35	鳥取	4	985	2	1	1,2,3,5(OHP)		2			1,2
36	島根	4	1120	2	1	1,2,3		2			1,2
37	岡山	11	2280	2	1	1,2,3,4,5(PC)		2			1,2,3
38	広島	11	2125	1	1	1,2,3,4,5(スライド, BS, 教材提示装置)		1	35000	108 1,2,3,4	1,2,3
39	徳島	5	1205	2	1	1,2,3,4,5(MD, LD, DVD, PC)	2(ただし, LL教室を昼休み開放)				1,2,3
40	香川										
41	愛媛	6	1775	2	1	1,2,3,4,5(LD)		1			1,2,3,4(LD)
42	九州	10	2351	1	1	1,2,3,4		2			1,2,3
43	佐賀	4	1170	2	1	1,2,3,4	1(ドイツ語教室のみ)	40	なし	1,2,3	1,2,3
44	長崎	8	1570	2	1	1,2,3,5(MD, LD, OHP, スライド, 教材提示装置)		2			4(経済学部でTOEIC教材)
45	熊本	7	1765	2	1	1,2,3		2			1,2,4(検定試験用教材)
46	宮崎	3	885	2	1	1,2,3		2			
47	琉球	6	1605	1	1	1,2,3		1	5	1,3,5(ビデオ)用7-ス5台	1,2,3,4(CALL)7ホ15台

	L	M	N	O	P	Q	R	S
1								
2								
3								
4								
5	<8-2(自習室)>	<9>	<10>	<11>	<12-1>	<12-2>	<13>	<14>
6	特にはなし			2	2	1	2	2
7				2	2	2	2	2
8	リスト			1	1	2	2	2
9				2	2	2	2	2
10				1	2	2	2	2
11				2	2	1	4(事務補佐員)	2
12	1,2,3,4(パソコン)	テープライブラリー教材一覧(ハンドブック)、図書館方式カード検索、Web版(作成中)		1	2	1	1,2	2
13	1,2,3,4(LD)	LL教室用掲示板に教材リストを掲示	2(臨時予算、特別予算で購入することはあ)	2	1	4(LL補助要員(学生アルバイト))	2	2
14				2	2	2	2	2
15				2	2	2	2	2
16	1,2,3,4(CALL)	正規の授業でCALLを履修、授業中に教材情報を与える		2	1	4(非常勤職員)	2	2
17	1,2,3	掲示による		1	2	1	2	2
18	1,3	教材リストを教室に。昼休みにLL助手(事務補佐員)が教室に待機		1	1	1	4(事務補佐員(主に院生))	1
19				1	2	1	4(助手)	2
20		教材テープの一斉ダビング		2	2	2	2	2
21				2	2	2	2	2
22	3	外国語教育研究センターの広報紙		1	1	2	2	2
23				2	2	2	2	2
24				2	2	2	2	2
25	教材なし	教官から情報伝達		2	2	1	4(非常勤職員)	2
26				2	2	2	2	2
27	1,2	各授業担当教官、事務室		1	1	1	2(助手)	2
28								
29				2	2	2	2	2
30				2	2	1	1,4(時間雇用職員)	2
31		教材リストを各語学事務室に備えている		2	2	1	4(事務・技術補佐員)	2
32	1,2,3,4(LD,スライド)	冊子体目録		2	2	1	1,3	2
33				2	2	1	4(技術補佐員)	2
34		担当教官が指示		2	2	2	2	2
35		授業中に紹介		1	1	1	4(事務補佐員)	2
36				2	2	2	2	2
37		授業で指示		1	2	1	4(日々雇用職員)	2
38	1,2,3	自習室のみWWW上でソフトウェアリストを公開(学内向け)		1	2	1	1,3	2
39		欄の中を見せる		2	2	2	2	1
40								
41		教材は教員用として教室に設置、学生は自由に使えないので情報提供		2	検討中	2	1(CALL)	2
42		各教室内及び事務室に教材一覧があり、学生はこの一覧を参考にして教		1	2	1	1(非常勤)	2
43	1,2,3(ドイツ語)	全学教育センターの外国語部会の授業や課外授業による		1	1	1	4(非常勤職員)	1
44		経済学部:ホームページからリンク		2	2	2	2	2
45		「LL」日より(年1回)、教官が授業中提供		1	2	1	4(非常勤職員)	2
46				1	1	2	2	2
47	1,2,3	「LL通信」(年1回)		1	2	1	2(2名).4(パート職員2名)	2

	T	U	V
1			
2			
3			
4			
5	<15>	<16>	<17>
6	2		2
7	1	英検、工業英検、仏検	2
8	2		2
9	2		2
10	2		2
11	2		2
12	2	現在検討中	2
13	2		2
14	1	英検(1級、準1級)なおTOEFLは検討中	1
15	1	英検(なお来年からTOEFL、TOEICも)	2
16	1	英検、TOEFL、TOEIC、仏検	1
17	2		2
18	1	英検	2
19	2		2
20	1	英検、仏検	2
21	2		2
22	2		2
23	2		1
24	1	英検、TOEFL、TOEIC、国連英検	2
25	2		2
26	平成12年度より英検		1
27	1	英検、工業英検、国連英検、TOEFL、TOEIC、ケアリッツ英検	2
28	2		
29	2		1
30	2		2
31	2		2
32	2		2
33	2		2
34	1	英検	2
35	2(検討中)		2
36	2		1
37	1	英検、国連英検、TOEFL、TOEIC、独検、仏検、HSK漢語水平考	2
38	1	英検、TOEFL、TOEIC	1
39	1	英検、TOEFL、TOEIC、独検、仏検、中検、HSK	2
40			
41	2		2
42	2		2
43	2		2
44	2		1
45	2		1
46	1	英検	1
47	1	英検(TOEFL、TOEICについては現在検討中)	1

A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K
外国語教育施設の利用状況に関するアンケート										
1	私立大学編									
2										
3										
4										
5	大学名	<1>	<2>	<3>	<4>	<5>	<6>	<7>	<7-2>	<8> (L室)
6	獨協	3 8000		1 11,2,3		1	6223	20	1,2,3,5 (CNN, 有線, BS, LD, DVD)	1,2
7	神田外語大学	1 520		2 1,1,3		2				授業教材のみ
8	青山学院	6 3950		2 1,2,3,4,5 (同時通訳訓練装置)		1	14740	59	1,2,3,4,5 (BBC, CNN, フォックス)	1,2,3
9	学習院	4 1460		1 1,2,3,4,5 (パソコン)		1		30		1,1,2,3
10	慶応義塾	8 6250		2 1		1	1994	16,5	1,5 (LD, CNN, BBC)	1,2,3
11	国際基督教大学	1 630		2 1,2,3,4		1	984	15	1,3	1,2
12	上智大学	7 2225		1 1,1,3,5 (OHC装置)		2				
13	中央大学	6 5400		2 1,2,3,4,5 (LD, パソコン, 教卓)		1	11803	20	1,2,3,4,5 (LD)	1,2,3,4 (LD)
14	津田塾大学	1 2320		2 1,1,2,3,4		1	20000	53	1,2,3,4,5 (発話練習装置)	1,2,3,4 (LD)
15	日本大学									
16	日大法学部	2000		2 2		2				
17	日大文理学部	1750		2 1,1,3,4,5 (DVD, LD, VCD, DVカ, MP, ほか)		1	300	10	1,3,4,5 (DVD, DVカ)	1,2,3,4 (LD, DVD)
18	日大経済	1300		2 2		2				
19	日大商学	1200		2 1,1,2,3		2				
20	日大芸術	840		2 2		2				
21	日大国際関係	730		1 1,1,3		1	11000	30	1,3,5 (パソコン)	1,2
22	日大理工	2020		2 1,1,2,3		2				1,2,3
23	日大生産工学	1400		2 1,1,2,3		2				1,2
24	日大工学	1030		2 1		2				
25	日大医学	110		2 2		2				
26	日大歯学	960		2 2		2				
27	日大松戸歯学	128		2 2		2				
28	日大生物資源	1410		2 2		2				
29	日大薬学	180		2 2		2				
30										
31	法政大学	8 5830		2 1,2,3,5 (LD)		1		50	1,2,3,5 (LD)	1,2,3,4 (LD)
32	明治大学	7 7591		2 1,2,3,5 (OHC)		1	22000	82	1,2,3,5 (LD, DVD)	4 (セクターからVOD, CNN放送を送出)
33	明治学院大学	5 2750		2 1,2,3,4		1	1500	36	1,2,3,4,5 (LD)	
34	中央大学	8 2585		2 1,1,2,3		1	6000	60	1,2,3,4	1,2,3
35	同志社	6 5490		1 1,3,4,5 (LD, DVD, OHC, 衛星放送受信, MD, VOD)		2				2,3
36	立命館	7 6520		1 1,2,3,4		1	300	8	1,2,3,4	
37	関西大学	7 5290	2 (外国語教育研究機構設立準備中)	1 1,2,3,4		1	12000	41	1,3	1,2,3
38	関西外大	1 1368		1 1,3,4		1	25000	41	1,3,4	1,2,3
39	関西学院	3540		1 1,1,3,4		1		30	1,2,3	1,2
40	福岡大学	9 4340		2 1,1,2,3,4,5 (LD, OHC)		1	4414	12	1,2,3,5 (LD)	1,2,3,4 (LD, 16mm7/8mm, スライド)

L	M	N	O	P	Q	R	S
1							
2							
3							
4							
5	<8-2(自習室)>	<10>	<11>	<12-1>	<12-2>	<13>	<14>
6	1,2,4(CD,LD,DVD)	語研掲示板、ホームページ、語研ニュース	1	1		1,2(言語)	1
7	1,2,3	パソコン検索、リスト検索	2	2			2
8	1,2,3,4(LD)	1 授業教材に使用のため担当教員を通ず	1	2	1,4(嘱託、7ルパート)		2
9	1,2,3,4(LD)	2 入学案内、研究所案内、掲示、自習室内にリスト	2	2	1,3,4(助手、7ルパート)		1
10	1,2	講義中知らせる、カード目録	2	2			2
11	1,2		2	2			2
12	1,2,3,4(LD)	学内向け情報誌に掲載、ホームページに掲載	2	2			2
13	1,2,3,4(LD)	自主制作教材は授業時に、その他の教材はAVライブラリ書誌として図書館資料とともにopac提供	1	2			2
14	1,2,3,4(LD)		1	1			2
15							
16							
17	1,2,3,4(LD,DVD)	授業中に情報提供	2	2	1,2,4(助手)		2
18							
19							
20							
21	1,2,3,4(LD)	索引つき一覧表を閲覧させる	1	2	1,4(助手)		2
22		授業時間	1	2	1,3,4(助手)		2
23	1,2	授業時間	1	2			2
24			2	2			2
25			2	2			2
26			2	2			2
27			2	2			2
28							
29			2	2			2
30							
31	1,2,4(パソコン用) 語学自習教材	教材リストの掲示、教員から案内	1	2	1,1,4(臨時職員)		2
32	1,2,3,4(LD,DVD)	AVセンターニュース、AVライブラリニュース、3校舎オンライン情報検索	1	2			2
33	1,2	所蔵リストの配架。年1~2回更新。自習室内で学生が自由に利用できる。	1	2			2
34	1,2,3		1	2			1
35		ビデオ教材はVODシステムで、CD-ROM教材はネットワーク利用	2	2			2
36	1,2,3	インターネット掲示版で案内	1	2			1
37	1,2	備え付け資料一覧表	1	1			2
38	1,2,3	冊子式教材リスト、ファイル式教材リスト	1	1	1,4(パート職員)		2
39	1,2	ニュースレター	1	1			2
40	1,2,3,4(LD)		1	2			2

	T	U	V	W
1				
2				
3				
4				
5	<15> <16> <17>			
6	2(H12年度から認定予定) 検討中		2(語研で有料講座あり) 2(課外講座)	
7	2		1(経済学部のみ)	
8	2			
9	2			1
10	1(授業の一環として受講し、その点数に応じて成績評価)			2
11	2			2
12	2(認定する方向で検討中)			2
13	2			2
14	2			2
15				
16	2			1
17	2(H12年度から単位認定予定)			2
18	2			1
19	2			2
20	2			2
21	1(英検準1級以上:英語Ⅰ・英語Ⅱ(各2単位)認定)		1(課外有料講座)	
22	2			1
23	2			1
24	2			2
25	2			2
26	2			2
27	2			2
28	2			2
29	2			2
30	2			
31	2			1
32	2			2
33	2		1(課外講座)	
34	2			1
35	2			1
36	2		1(課外講座)	
37	2			2
38	2			2
39	1(英検準1級以上を2単位)			2
40	2			2

A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T	U
70	2-03	2	1	5	2	1		4.6		1	2	2	1,3,4,5	1	1(TORIC)					1
71	2-04	2	1	5	3	1	本を読む		3	1	2	1,2,3,4	1	1(TORIC)						1
72	2-05	2	1	5	3	1		3.4		2		1,2,3	1	1(TORIC)						1
73	2-06	2	1	5	3	1	卒業のため		6	2		1,3,6	2		2					2
74	2-07	2	1	5	3	1			6	2		1,6	2							2
75	2-08	2	1	5	3	1	卒業のため			2		1,2,3	2							2
76	2-09	2	1	5	3	1	NHKラジオ英会話			2		1,2,3,6	2	1(TOEIC)						1
77	2-10	2	1	5	3	1		3.4		2		1,2,3,4,6	2	1(TOEFL)						1
78	2-11	2	1	5	3	1	卒業のため			2		1,2,3,6	2		2					2
79	2-12	2	1	5	3	1		3.6		2		1,3,6	2							2
80	2-13	2	1	5	3	1			6	2		1,2,3,6	2							2
81	2-14	2	1	5	3	1			1	2			1							2
82	2-15	2	1	5	3	1		3.6		2		1,2,3	2	1(英検2級)						2
83	2-16	2	1	5	3	1			3	2		1,2,3,6	1	1(英検2級)						2
84	2-17	2	1	5	3	1		2.4		2		1,2,3	1	1(英検3級)						2
85	2-18	2	1	5	3	1			5	2		1,2,3,6	1	1(英検2級)						2
86	2-19	2	1	5	3	1			2	2		1,2,3,6	2	1(英検2級)						2
87	2-20	2	1	5	3	1			1	2			1	1(英検2級)						2
88	2-21	2	1	5	3	1		3.6		2		1,2,3	2	1(英検2級)						2
89	2-22	2	1	5	3	1			6	2		1,2,3	1	1(英検2級)						2
90	2-23	2	1	5	3	1		3.6		2		1,2,3,6	1	1(英検2級)						2
91	2-24	2	1	5	3	1		3.4		1		2	1,6	1(工業英検)						1
92	2-25	2	1	5	3	1	卒業のため			2		1,2,3	1	1(英検3級)						2
93	2-26	2	1	5	3	1		3.6		1	2	1,2,3	2	1(TOEFL)						2
94	2-27	2	1	5	3	1			6	2			2							2
95	2-28	2	1	5	3	1		3.5		2			1							2
96	2-29	2	1	5	3	1			2	2		1,2,6	1	1(英検)						2
97	2-30	2	1	5	3	1		3.6		2		1,2,3,4,6	2	1(英検、工業英検)						2
98	2-31	2	1	5	3	1			6	2		1,2,3,4	1	1(英検)						2
99	2-32	2	1	5	3	1			6	2			1	1(英検)						2
100	2-33	2	1	5	3	1			6	2			1	1(英検)						2
101	2-34	2	1	5	3	1		1.3		2		1	2	1(英検)						1
102	2-35	2	1	5	3	1			2	2		1,2,3,4,6	1	1(TOEFL、TOEIC)						2
103	2-36	2	1	5	3	1		1.3		2		1,2,3,6	1	1(TOEFL、TOEIC)						2
104	2-37	2	1	5	3	1		3.6		2		1,2,3,6	2	1(英検)						2
105	2-38	2	1	5	3	1		3.6		2			1	1(英検)						2
106	2-39	2	1	5	3	1			6	2		1,2	1	1(英検)						2
107	2-40	2	1	5	3	1			3	2		1,2	1	1(英検)						2
108	2-41	2	1	5	3	1		7(強制)		2		1,2	1	1(英検)						2
109	2-42	2	1	5	3	1			2	2		1,2	1	1(英検)						2
110	2-43	2	2	5	2	1			3	2		1,6	1	1(TOEFL)						2
111	2-44	2	2	5	3	1		1.6		2		2,1,6	1	1(英検)						2
112	2-45	2	1	5	3	1		1.3		2		1,2,3,6	1	1(TOEFL、TOEIC)						2
113	3-01	1	1	4	3	1		6.7(旅行のため)		1	2	2,1,4	1	1(英検)						2
114	3-02	1	1	4	3	1		7(研究上必要だから)		2		1,2,3	1	1(英検)						2
115	3-03	1	1	4	3	1		7(やりたい人だけやればよい)		2			1	1(英検)						2
116	3-04	1	2	4	2	1			2	2			1	1(英検)						2
117	3-05	1	2	4	2	1		1.6		2		1,3,4	1	1(英検)						2
118	3-06	1	2	4	2	1		3.6		2			1	1(英検)						2
119	3-07	1	2	4	2	1		1.6		2		1,3,4	1	1(英検)						2
120	3-08	1	2	4	2	1	英検の勉強、ラジオ英会話、英語ニュース			2		2,1,2,3,4	1	1(英検)						2
121	3-09	1	2	4	2	1		3.5		2		1,2,3	2	1(TOEFL、TOEIC、国連英検)						2
122	3-10	1	2	4	2	1		6.7(旅行のため)		2			1	1(英検)						2
123	3-11	1	2	4	2	1		3.6		2		1	1	1(英検)						2
124	3-12	1	2	4	2	1		3.6		2		1,2,3	1	1(英検)						2
125	3-13	1	2	4	2	1			6	2		1,2,3	1	1(英検)						2
126	3-14	1	2	4	2	1			6	2		1,2,3	1	1(英検)						2
127	3-15	1	2	4	2	1		4.6		2		1,2,3	1	1(英検)						2
128	3-16	1	2	4	2	1		5.6		2		1,2,3,4	1	1(英検)						2
129	3-17	1	2	4	2	1		3.4		2		1,2,3	1	1(英検)						2
130	3-18	1	2	4	2	1		3.6		2		1,2,3	1	1(英検)						2
131	3-19	1	2	4	2	1		3.6		2		1,3	1	1(英検)						2
132	3-20	1	2	4	2	1		3.6		2		1,2,3	1	1(英検)						2
133	3-21	1	2	4	2	1		3.4		2		1,2,3	1	1(英検)						2
134	3-22	1	2	4	2	1		1.6		2		1,2,3,4	1	1(英検)						2
135	3-23	1	2	4	2	1			6	2		1,2,3,4	2	1(英検)						2
136	3-24	1	2	4	2	1			6	2		1,2,3,4	2	1(英検)						2
137	3-25	1	2	4	2	1			6	2		1,3	1	1(英検)						2
138	3-26	1	2	4	2	1		3.6		2		1,3	1	1(英検)						2

A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T
139	3	27	1	1	4	2		3.6	2				2		(英検)		2		2
140	3	28	1	2	4	2			4		1,2,3		2	英検準2級	1(英検, TOEIC)		2		1
141	3	29	1	4	2	1		7(英語を聴め、書けるようになりたい)	2				2	英検5級	2		1		2
142	3	30	1	4	3	2		6.7(卒業)	2				2	英検5級	2		2		2
143	3	31	1	4	3	1		3.6	2				2	英検5級	2		2		2
144	3	32	1	4	3	1		3.4	2				2	英検5級	2		2		1
145	3	33	1	2	4	2			6		1,2,4		1	英検準2級	2		1		1
146	3	34	1	2	4	2			2				1	英検3級	2		1		2
147	3	35	1	4	2	1		3.4	4		1,3		1	英検3級	1(TOEIC, TOEFL)		2		1
148	3	36	1	4	3	1		2.3	2		1,2,3		1	英検4級	1(英検)		2		1
149	3	37	1	4	3	2		6	1		2		2	英検4級	1(英検)		2		1
150	3	38	1	4	3	2		3.6	2				2	英検3級	2		2		2
151	3	39	1	4	3	2		5.7(旅行したい)	2				2	英検3級	2		2		2
152	3	40	1	4	2	1		1.2	2		1,2,4		2	英検3級	1(TOEFL)		2		1
153	3	41	1	4	3	1		3.6	2		1,6		2	英検3級	2		2		2
154	3	42	1	4	3	1		6.7(卒業)	2				2	英検3級	2		2		2
155	3	43	1	4	2	1		1.2	2		1,2,3,4		1	英検3級	1(TOEFL)		2		1
156	3	44	1	4	3	1		3.6	2		1,3		2	英検3級	2		2		1
157	3	45	1	4	3	2			6		1,3		2	英検3級	2		2		2
158	3	46	1	2	4	2		6	2		1,3		2	英検3級	2		2		2
159	3	47	1	4	2	1		6	2		1,2,3,4		2	英検3級	2		2		1
160	3	48	1	4	2	1		1.3	2				2	英検3級	1(TOEIC, TOEFL)		2		1
161	3	49	1	4	2	1		2.3	2		1,2		2	英検3級	1(TOEFL)		2		1
162	3	50	1	4	1	1		1.5	2		1,2		2	英検準2級	2		1		1
163	4	01	1	3	1	1		2.5	2		1,2,3,5		1	英検準2級	1(英検, TOEFL, TOEIC)		2		1
164	4	02	1	3	3	2		7(必修)	1		2	1,2,3	2	英検準2級	2		2		2
165	4	03	1	3	2	2			3		1,3		2	英検2.4級	1(TOEIC)		2		1
166	4	04	1	3	1	2			6		1,3		2	英検後	2		2		2
167	4	05	1	3	1	2			3		1,3		2	英検後	2		2		2
168	4	06	1	3	3	1			6		1,2,3,4		2	英検2級	1(英検)		2		2
169	4	07	1	3	3	1		3.4	2		2	1,2,4	2	英検2級	2		2		2
170	4	08	1	3	3	1		3.4	2		2	1,2,3	2	英検準1級	1(英検, TOEIC)		2		1
171	4	09	1	3	2	1		4.6	2		1,3		2	英検2級	1(英検, TOEIC)		2		2
172	4	10	1	3	2	1			5		2	1,3	2	英検2級	2		2		1
173	4	11	1	3	2	1			6		1		2	英検2級	2		2		2
174	4	12	1	3	2	1		5.6	2		1		2	英検3級	2		2		2
175	4	13	1	3	2	1			6		2		2	英検3級	2		2		2
176	4	14	1	3	2	1		1.6	2		1,2		2	英検3級	2		2		2
177	4	15	3	1	3	2		7(単位のため)	2		2	1,2,3	2	英検2級	2		2		2
178	4	16	1	2	3	1		3.4	2		1,3		2	英検2級	2		2		1
179	4	17	1	2	3	1		7(映画を字幕無しで理解したい)	1		2		1	英検2級	1		2		2
180	4	18	2	2	3	1		5.6	2		1,2,3,4		2	英検2級	2		2		2
181	4	19	1	2	3	2			6		2		2	英検3級	1(英検, TOEIC)		2		1
182	4	20	1	2	3	2			6		2		2	英検3級	1(英検)		2		2
183	4	21	4	1	2	1		2.3	1		1	1,2,3	1	英検3級	2		1		1
184	4	22	1	2	3	1		4.6	2		2	1,3	1	英検3級	1(英検)		2		2
185	4	23	1	2	3	2			6		2	1,2,3	2	英検準2級	1(TOEFL)		2		2
186	4	24	1	2	3	1			3		2		2	英検2級	2		2		1
187	4	25	1	2	3	2			6		2		2	英検3級	2		2		2
188	4	26	1	2	3	2		4.6	2		2		2	英検3級	1(TOEIC)		2		2
189	4	27	1	1	3	2		6.7(卒業)	1		2	1,3	2	英検3級	1(TOEIC, TOEFL)		2		2
190	4	28	1	3	3	2			2		2		2	英検4級	2		2		1
191	4	29	1	3	2	1		3.4	2		1		2	英検4級	1(英検)		2		1
192	4	30	1	1	3	1		1.6	2		1		2	英検2級	1(英検準2級)		2		1
193	4	31	1	2	3	1		3.6	1		2		2	英検2級	1(英検)		2		1
194	4	32	1	2	3	2		3.6	2		1		2	英検2級	1(英検)		2		2
195	4	33	1	2	3	2			6		1,2,3		2	英検準2級	2		2		2
196	4	34	1	2	3	1		3.6	1		2	1,2,3,4,5	1	英検2級	1(英検)		2		1
197	4	35	1	1	3	2			6		2	1,2,3,4	2	英検3級	2		2		2
198	4	36	1	2	3	2		3.6	2		1,2,3		2	英検3級	1(TOEIC)		2		1
199	4	37	1	1	3	1			6		2		2	英検3級	2		2		2
200	4	38	1	1	3	2		7(必修だから)	6		2		2	英検準2級	2		2		2
201	4	39	1	1	3	3			2		1,2,3		2	英検準2級	2		2		2
202	4	40	1	2	3	1			4		1,3		1	英検準2級	1(英検, TOEIC)		2		1
203	4	41	1	1	3	2		5.6	2		2		2	英検4級	2		2		2
204	4	42	1	1	3	1			2		1,3		2	英検4級	1(英検)		2		1
205	4	43	1	1	3	2		7(卒業のため)	2		2		2	英検4級	2		2		2
206	5	01	1	2	1	2		4.6	2		1,2,3		1	英検準2級	1(英検, TOEIC)		2		1
207	5	02	1	2	1	3			6		2		2	英検4級	2		2		2

A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T	U
2716-33	2	2	4	2	1	2			6	1	2	1,2,3,4	2		1(TOEIC)		2			1
2718-34	2	2	4	3	2	2			6	2	2	1,2,3,4	2		1(TOEIC)		2			2
2719-35	2	2	4	2	1	2	英検の勉強		5	2	1,2,3,4,5	2		1(英検) TOEIC	1(問題集)					1
2806-36	2	2	4	3	2	2	7(単位)		2	2	1,3,4	1		1(英検) TOEIC						1
2816-37	2	2	4	3	2	2			1	2	1,2,3,4	1		1(TOEIC)						1
2826-38	2	2	4	3	2	2	3.6		2	2	1,2,3,4	1		1(TOEIC)						1
2836-39	4	1	4	3	1	2			6	2	1,2,3	2								1
2846-40	2	2	4	3	1	2			6	2	1,3	2								1
2856-41	2	2	4	3	2	1			4	2	1,2,3,4,6	1		1(英検) 国連英検 TOEIC						1
2866-42	2	1	4	1	1	1	英語のレベルを見る		2	2	1,2,3,6	1		1(TOEIC)	1(文法)		1			1
2876-43	2	1	4	3	2	2			3	1	1,2,3,4,5	1		1(TOEFL) 国連英検	1(単語)					1
2887-01	2	2	2	1	1	2	TOEFL問題集、英会話学校2回		2	2	1,2,3,4	2		1(TOEFL TOEIC)						1
2897-02	1	2	2	2	1	2	3.4		2	2	1,2,3	2		1(TOEFL)						2
2907-03	1	1	2	2	2	2	2.3		2	2	1,2,3	2		1(TOEFL)						1
2917-04	1	1	2	2	2	2	2.3		1	2	1,2,3	2		1(TOEFL)						2
2927-05	2	2	2	2	1	2	1.3		1	2	1,2,3	2		1(TOEFL)						1
2937-06	1	1	1	2	2	2	3.4		6	2	1,2,3	1		1(TOEFL)						2
2947-07	1	1	2	3	2	2			6	2	1,2,3	1		1(TOEFL)						2
2957-08	1	1	2	2	2	2	7(就職試験で使える程度の勉強)		6	2	1,2,3,4	1		1(英検)						2
2967-09	1	1	2	2	2	2			6	2	1,2,3,4	1		1(英検)						2
2977-10	1	1	2	2	2	2			4	2	1,2,3,4	1		1(英検) TOEFL, TOEIC						2
2987-11	1	1	2	2	2	2	2.5		2	2	1,2,3,4	1		1(英検) TOEFL, TOEIC						2
2997-12	1	1	2	2	2	2	4.6		2	2	1,2,3,4	1		1(TOEIC)						1
3007-13	1	2	2	2	2	2	1.4		2	2	1,2,3,6	1		1(英検)						1
3017-14	1	2	2	2	2	2	3.6		1	2	1,2,3,4	1		1(TOEIC)						2
3027-15	1	2	2	1	1	2	2.4		2	2	1,2,3,4	1		1(TOEIC, TOEFL)						1
3037-16	1	2	2	3	1	2	3.4		2	2	1,2,3	1		1(英検) TOEIC	1(通信教育)					1
3047-17	1	2	2	2	2	2			6	2	1,2,3	2		1(英検)						1
3057-18	1	2	2	2	2	2	4.6		1	2	1,2,3,4	2		1(TOEFL)						1
3067-19	1	2	2	2	2	2			6	2	1,2,3	2		1(TOEIC)						1
3077-20	1	1	2	3	2	2			6	2	1,2,3	2		1(TOEIC)						2
3087-21	1	1	2	2	2	2			6	2	1,2,3	2		1(英検2級)						2
3097-22	1	1	2	2	2	2	3.6		2	2	1,2,3	1		1(TOEIC)						1
3107-23	1	1	2	2	2	2	3.5		1	2	1,2,3,4	2		1(TOEIC)						2
3117-24	1	1	2	2	3	1	2.4	単語暗記、ラジオ英会話、読書	2	2	1,2,3,4	2		1(英検)	1(単語)					2
3127-25	2	2	2	2	1	2			6	2	1,2,3,4	1		1(英検)						1
3137-26	1	1	2	2	2	2			6	2	1,2	1		1(TOEFL)						1
3147-27	1	1	2	2	2	2	3.6		2	2	1,2,3,4	2		1(TOEFL TOEIC) 国連英検						1
3157-28	1	1	2	2	2	2	1.6		2	2	1,2,3	2		1(TOEFL)						2
3167-29	1	1	2	3	2	2	6.7(単位)		1	2	1,2,3	2		1(英検2級)						2
3177-30	1	1	2	1	1	2	3.6		2	2	1,2,3	2		1(英検)						2
3187-31	1	1	2	1	1	2	5.6		2	2	1,2,3,4	1		1(英検)						2
3197-32	1	1	2	3	1	2			6	1	1,2,3	1		1(TOEIC)						1
3207-33	1	1	2	2	3	1	3.6		1	2	1,2,3,4	1		1(TOEIC)						2
3217-34	1	2	2	2	2	1	5.6		1	1	1,2,3,4	2		1(TOEIC)						1
3227-35	1	1	2	2	2	2			6	2	1,2,3,4,5	1		1(TOEIC)						1
3237-36	1	1	2	2	2	2	4.6		2	2	1,2,3,4,5	2		1(TOEIC) 国連英検、通訳業						1
3247-37	1	2	2	2	2	2	2.6		2	2	1,2,3,4	1		1(TOEIC) 英検						1
3257-38	1	1	2	2	3	1			6	1	1,2,3,4	2		1(TOEIC)						1
3267-39	1	2	2	2	2	2	1.3		2	2	1,2,3,4	1		1(英検2級) TOEFL TOEIC						2
3277-40	1	2	2	2	3	1	1.6		2	2	1,2,3	2		1(英検)						1
3287-41	1	2	2	2	1	2	3.6		1	2	1,2,3	2		1(英検) 国連英検 TOEIC						1
3297-42	1	1	2	2	2	2			6	2	1,2,3,4,6	1		1(英検) TOEIC, TOEFL	1(参考書)					1
3307-43	1	1	2	2	2	2	1.2		2	2	1,2,3,4	2		1(TOEFL)	1(Listening)					1
3317-44	1	1	2	2	2	2			6	2	1,2,3,4	2		1(TOEFL)						1
3327-45	1	1	2	3	1	2	3.4		2	2	1,2	2		1(英検3級)						2
3337-46	1	2	2	2	1	2			6	2	1,2,3	1		1(TOEFL)						2
3347-47	1	2	2	1	2	2	2.4		2	2	1,2,3	1		1(英検) TOEFL TOEIC						2
3358-01	1	1	5	2	1	2			3	1	1,2,3	3		1(英検) TOEFL TOEIC						1
3368-02	1	2	5	3	2	2			6	2	1	2		1(TOEIC620)						1
3378-03	1	1	5	3	1	2	3.4		2	2	1,3	1		1(工業英検)						2
3388-04	1	1	5	3	2	2	3.7(卒業)		1	2	1,3	1		1(工業英検)						2
3388-05	1	1	5	3	2	2			6	1	1,2,3	1		1(英検)						2
3408-06	1	1	5	2	1	2			6	2	1,2,3	1		1(英検2級)						2
3418-07	1	1	5	3	2	2	3.6		3	1	1,2,3,6	1		1(英検)						1
3428-08	1	2	5	3	2	2	3.6		2	2	1,2	1		1(英検)						2
3438-09	1	1	5	2	1	2	3.4		2	2	1,3,6	1		1(英検)						2
3448-10	1	1	5	3	1	2	1.3		2	2	1,2,3	2		1(英検2級)	1(単語)					1
3458-11	1	1	5	3	1	2			3	1	1,2,3,6	1		1(工業英検)						2

A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T	U
346	8-12	1	2	5	3	1	2		3.5	1	2		2		(英検)				1	1
347	8-13	1	1	5	3	2	2		7(卒業)		1.3		1	英検3級		2			2	2
348	8-14	1	1	5	3	2	2		3.4		1.3		1		(英検)				2	2
349	8-15	1	1	5	2	1	2		3.6		1.2,3		2		(TOEFL, TOEIC)				2	2
350	8-16	1	1	5	2	1	2		7(海外へ行きたい)		1.2,3		2		(TOEFL, TOEIC)				2	2
351	8-17	1	1	5	3	1	2				2, 1.3		2		(TOEIC)				2	2
352	8-18	1	1	5	3	1	2		3.6		1.3		1	英検3級		2			2	2
353	8-19	1	1	5	3	1	2				1.2,3		1	英検準2級		2			2	2
354	8-20	1	1	5	3	1	2				1.2,3		1	英検3級		2			2	2
355	8-21	1	1	5	3	1	2		3.6		1.2		2	(英検)		2			2	2
357	8-23	1	1	5	2	1	2		3.5		1.7(商業)		2		(英検)				2	2
358	8-24	1	1	5	2	1	2		1.3		1.2,3,6		2		(英検)				2	2
359	8-25	1	1	5	3	1	2		3.4		1		1	英検3級		2			2	2
360	8-26	1	1	5	2	1	2				1		1	英検準2級		2			2	2
361	8-27	1	1	5	2	1	2		5.6		1.2,3,6		2		(英検2級)				2	2
362	8-28	1	1	5	3	2	2				1.6		2		(英検準2級)				2	2
363	8-29	1	1	5	3	1	2		3.4		1		2		(英検準2級)				2	2
364	8-30	1	1	5	3	1	2				1.2,3		1	英検3級		2			2	2
365	8-31	1	1	5	3	1	2		3.6		1.3		1	英検準2級		2			2	2
366	8-32	1	1	5	3	1	2				1.3		1	英検3級		2			2	2
367	8-33	1	1	5	2	1	2		2.4		1.3		1	英検3級		2			2	2
368	8-34	1	1	5	3	2	1				1.4		1	英検3級		2			2	2
369	8-35	1	1	5	3	1	2		4.5		1		1	英検2級		2			2	2
370	8-36	1	1	5	3	1	2				1		1	英検5級		2			2	2
371	8-37	1	1	5	3	1	2		4.7(単位)		2		2	(英検)		2			2	2
372	8-38	1	1	5	3	1	2		3.6		1		1	英検準2級		2			2	2
373	8-39	1	1	5	3	1	2		3.4		1, 1.2,3,6		2		(英検)				2	2
374	8-40	1	1	5	3	1	2				1.3		2		(英検)				2	2
375	8-41	1	1	5	3	1	2		3.4		1		1	英検4級		2			2	2
376	8-42	1	1	5	3	2	2				1		2		(英検2級)				2	2
377	8-43	1	1	5	3	1	2		3.6		1		2		(英検)				2	2
378	9-01	2	2	1	3	1	2				1.4		1	英検3級		2			2	2
379	9-02	2	2	1	3	2	2				1		1	英検2級		2			2	2
380	9-03	2	2	1	3	2	2				2		2		(TOEIC)				2	2
381	9-04	2	2	1	3	2	1		1.5		2		2		(TOEIC)				2	2
382	9-05	2	2	1	2	1	2				1.3		1	英検2級		2			2	2
383	9-06	2	2	1	2	2	2				1		1	英検2級		2			2	2
384	9-07	2	2	1	3	1	2		1.3		1		2		(TOEIC)				2	2
385	9-08	3	1	3	2	1	2		1.6		1.2,3,4		1	英検2級		2			2	2
386	9-09	2	2	2	2	1	2		5.6		1		2		(TOEIC)				2	2
387	9-10	2	2	2	2	2	2				1.2,3,4		1	英検2級		2			2	2
388	9-11	2	2	2	2	1	2		3.6		1.3		2		(TOEFL, TOEIC)				2	2
389	9-12	2	2	2	2	1	2				1.2,3		1	英検3級		2			2	2
390	9-13	2	2	1	2	1	2		3.4		1.2,3		2		(TOEIC)				2	2
391	9-14	2	2	1	2	1	2				1.2,3		2		(TOEIC)				2	2
392	9-15	2	2	1	3	1	2		5.6		1		1	英検3級		2			2	2
393	9-16	2	2	2	3	1	2		4.6		1.3		1	英検3級		2			2	2
394	9-17	2	2	2	3	2	2		3.6		2, 1.4,6		2		(英検)				2	2
395	9-18	2	2	1	3	1	2				1		2		(英検)				2	2
396	9-19	2	2	1	3	1	2		3.4		1		1	英検3級		2			2	2
397	9-20	2	2	1	2	1	2		5.6		1.5		1	英検準2級		2			2	2
398	9-21	2	2	1	2	1	2				1		1	英検3級		2			2	2
399	9-22	2	2	1	2	2	2				1.2,3		2		(英検)				2	2
400	9-23	2	2	1	3	2	1		5.6		1.2,3,4		1	英検準2級		2			2	2
401	9-24	2	2	1	2	1	2		3.4		1.2,3		1	英検4級		2			2	2
402	9-25	2	2	1	2	1	2		1.3		1		1	英検準2級		2			2	2
403	9-26	2	2	1	2	1	2		6.7(旅行)		1.2,3		1	英検5級		2			2	2
404	9-27	2	2	3	3	1	2				1.5		1	英検準2級		2			2	2
405	9-28	2	2	2	3	1	2				2		2		(TOEIC)				2	2
406	9-29	2	2	2	3	2	1				1.3		1	英検4級		2			2	2
407	9-30	2	2	2	2	1	1		4.6		1.2,3		2	英検準2級		2			2	2
408	9-31	3	1	1	3	1	2				2		1	英検2級		2			2	2
409	9-32	3	1	2	1	2	2				2		2	(英検、TOEFL)		2			2	2
410	9-33	2	2	1	3	3	1				1		2	(TOEFL)		2			2	2
411	9-34	2	2	1	3	1	2		7(単位)		2		1	英検2級		2			2	2
412	9-35	2	2	1	3	1	2		3.6		1.2,3,4		1	英検3級		2			2	2
413	9-36	3	1	3	3	1	2		1.6		1		1	英検2級		2			2	2
414	9-37	2	2	1	3	2	2				2		1	英検3級		2			2	2

A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T	U
415 9-38	2	1	2	3	2	2			5	2			2							
416 9-39	2	1	3	2	2	2			6	2		1	2							
417 9-40	2	1	2	2	1	2			3	2		1.3	2		1(TOEIC)					
418 9-41	2	1	2	2	2	2			6	2		1.2, 3.4	2							
418 9-42	2	1	3	2	2	2			6	1	2	1.2, 3.4	2							
420 9-43	2	1	3	3	2	2			6	2		1.2, 3	2							
421 9-44	2	1	2	2	2	2			6	2		1.2, 3	2							
422 9-45	2	1	2	2	2	2			6	2		1.3	2							
423 9-46	2	1	3	3	1	2			6	2		1.2, 3.4	2							
424 9-47	4	1	1	2	1	2			3.6	2		1.2, 3.4	2							
425 9-48	2	2	2	2	1	2			3.6	2		1.2, 3	2							
425 9-49	2	1	3	2	2	1			3	2		1.2, 3	2							
427 0-01	2	1	2	1	1	2			1	1	2	1.2, 3.4	2							
428 0-02	2	2	1	2	1	2			4	2		1.2, 3	1		1(英検, TOEIC)					
429 0-03	2	1	1	3	2	2			4	2		1.2, 3	2							
430 0-04	2	1	3	3	1	2			6	1	2	1.2, 3	2							
431 0-05	2	1	3	3	2	2			6	2		1.2, 3	2							
432 0-06	2	1	3	3	2	2			1	2	2	1.2, 3	2							
433 0-07	2	1	2	2	2	2			6	2		1.2, 3	2							
434 0-08	2	1	2	2	3	2			6	2		1.3	1							
435 0-09	2	2	1	2	2	1			5	2		1.2	2							
435 0-10	2	2	1	1	3	1			2	2		1.2, 3	2							
437 0-11	2	2	1	3	2	2			6	1	2	1.2, 3.4	1							
438 0-12	2	2	1	2	1	2			6	2	2	1.2, 3.4	2							
439 0-13	2	1	1	3	1	2			6	2	2	1.2, 3	2							
440 0-14	2	2	2	3	3	1			6	2	2	1.2, 3	2							
441 0-15	3	2	2	3	1	2			7(強制されたから)	2		1.2, 3.4	1							
442 0-16	2	1	1	1	1	2			6	2		1.2, 3	2							
443 0-17	2	1	1	2	2	2			5.6	2		1.2, 3.4	2							
444 0-18	3	1	2	2	2	2			6	1	2	1.2, 3.4	2							
445 0-19	2	2	2	2	1	2			3.6	2		1.2, 3	2							
446 0-20	2	2	2	2	2	2			6	2		1.2, 3	1							
447 0-21	2	1	3	2	1	1			1	2		1.2, 3	2							
448 0-22	2	2	2	2	2	2			6	2		1.2, 3.4	1							
449 0-23	2	2	3	2	1	2			6	2		1.2, 3	2							
450 0-24	2	1	2	2	2	2			6	2	2	1.2, 3	2							
451 0-25	2	2	3	2	2	2			4.6	2		1.2, 3.4	2							
452 0-26	2	1	3	1	1	2			6	2		1.2, 3	2							
453 0-27	2	1	1	2	1	2			6	2		1.2, 3	2							
454 0-28	2	2	1	2	1	2			3.4	2		1.2, 3.4	1							
455 0-29	2	1	3	1	2	2			6	1	2	1.2, 3.4	1							
456 0-30	2	2	2	2	2	2			4.6	2		1.3	1							
457 0-31	2	1	2	1	1	2			2.4	2		1.2, 3.4	1							
458 0-32	2	1	2	2	2	2			6	2		1.3	2							
459 0-33	2	1	2	3	1	2			6	2		1.2, 3	2							
460 0-34	2	1	3	3	2	2			6	2		1.2, 3.4	2							
461 0-35	2	1	2	3	2	2			6	2		1.2, 3	2							
462 0-36	2	1	3	3	3	1			4.6	2		1.2, 3.4	2							
463 0-37	2	1	2	2	2	2			6.7(強制)	2		1.2, 3.4	2							
464 0-38	2	1	3	3	1	2			6	2		1.2, 3	2							
465 0-39	2	2	2	2	2	2			6	2		1.2, 3	2							
466 0-40	2	2	3	2	2	1			6	2		1.2, 3	2							
467 0-41	2	2	3	2	1	2			2.4	2		1.2, 3.4	2							
468 0-42	2	2	2	3	2	2			6	2		1.2, 3	2							
469 0-43	2	2	2	2	2	2			5	2		1.2, 3.4	2							
470 0-44	3	1	3	3	3	1			6	2		1.2, 3	2							
471 0-45	2	2	2	3	1	2			3.4	2		1.2, 3.4	1							
472 0-46	2	2	2	3	3	2			3.6	2		1.2, 3	2							
473 0-47	2	1	3	3	2	2			4.6	2		1.2, 3	2							
474 0-48	4	1	3	1	1	2			7(単位)	2		1.2, 3.4	1							
475 0-49	2	1	3	1	1	2			3.6	2		1.3, 4	1							
476 0-50	2	1	3	1	1	2			3.6	2		1.2, 3.4	2							
477 0-51	2	1	3	3	1	2			4.6	2		1.2, 3	2							
478 0-52	2	1	1	3	1	2			3.6	2		1.3	2							
479 0-53	3	1	3	2	1	2			2	2		1.2, 3	1							

[参考資料Ⅱ] 英語教育最近四半世紀の動向

1. 中学校・高等学校学習指導要領の改訂

△ 昭和52年 中学校学習指導要領改訂

・ 外国語科改訂の基本方針

- (1) 内容の程度や分量が一層適切なものになるように、基本的・基礎的な事項に精選すること。
- (2) 言語活動の基礎を養うことを一層重視し、特に表現力の育成に配慮すること。

・ 具体的な改善点

- (1) 英語の言語活動については各学年共通とし、その指導事項の主なものを示すこと。
- (2) 英語の言語材料については、各学年相互において弾力的な取扱いができるようにすること。
- (3) 英語の言語材料については、主として第3学年の文型、文法事項を中心に整理し、基本的な事項に習熟できるようにすること。
- (4) 英語以外の外国語についても、改訂の基本方針に即し、英語に準じて改めること。

・ 外国語科の目標

外国語を理解し、外国語で表現する基礎的な能力を養うとともに、言語に対する関心を深め、外国の人々の生活やものの見方などについて基礎的な理解を得させる。

・ 関係の文部省著作刊行物

学習指導要領解説書

『中学校指導書 外国語編』(昭和53年5月)

△ 昭和53年 高等学校学習指導要領改訂

・ 外国語科改訂の基本方針 (注：中学校と共通)

- (1) 内容の程度や分量が一層適切なものになるように、基本的・基礎的な事項に精選すること。
- (2) 言語活動の基礎を養うことを一層重視し、特に表現力の育成に配慮すること。

・ 具体的な改善点

- (1)① 高等学校における英語の中心となる科目として、「聞くこと、話すこと」、「読むこと」及び「書くこと」の言語活動が総合的に行われるような内容の科目、「英語Ⅰ」及び「英語Ⅱ」を設ける。
 - ② 「英語Ⅰ」は、英語を選択する生徒に対して初学年において履修させるものとする。「英語Ⅱ」は、「英語Ⅰ」を履修した後、更に英語の履修を希望する生徒に引き続いて履修させるものとする。
- (2)① 「英語Ⅰ」を履修した後、生徒の興味・関心や能力・適性・進路等に応じて選択履修ができるようにするため、「英語ⅡA」、「英語ⅡB」及び「英語ⅡC」の各科目を設ける。
 - ② 「英語ⅡA」は主として「聞くこと、話すこと」の言語活動を、「英語ⅡB」は主として「読むこと」の言語活動を、「英語ⅡC」は主として「書くこと」の言語活動をそれぞれ一層深めて学習する科目とする。
 - ③ 「英語ⅡA」、「英語ⅡB」及び「英語ⅡC」の各科目は、中学校以降において「英語Ⅱ」の履修と並行して選択履修させことが望ましい。
- (3) 英語以外の外国語については、改善の基本方針に即し、その特性や履修の実態等にも配慮して改める。

- ・ 外国語科の目標

外国語を理解し、外国語で表現する能力を養うとともに、言語に対する関心を深め、外国の人々の生活やものの見方などについて理解を得させる。

- ・ 関係の文部省著作刊行物

学習指導要領解説書

『高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編』（昭和54年5月）

△平成元年 中学校学習指導要領改訂

- ・ 改訂の趣旨

今回の外国語科の改訂は、これら答申（注：昭和62年12月の教育課程審議会答申「幼稚園、小学校、中学校及び高等学校の教育課程の基準の改善について」）の趣旨に沿って、国際化の進展に対応し、国際社会の中に生きるために必要な資質を養うという観点から、特にコミュニケーション能力の育成や国際理解の基礎を培うことを希望するために、次の三つの基本方針に基づいて行われた。

- (1) 読むこと及び書くことの言語活動の指導がおろそかにならないように十分配慮しつつ、聞くこと及び話すことの言語活動の指導が一層充実するよう内容を改善する。
- (2) 生徒の学習の段階に応じて指導が一層適切なものになるよう指導内容をより重点化・明確化するとともに、生徒の実態等に応じて多様な指導ができるようにする。
- (3) 外国語の習得に対する生徒の積極的な態度を養い、外国語の実践的な能力を身に付けさせるとともに、外国についての関心と理解を高めるよう配慮する。

- ・ 外国語科の目標とその改善点の要点

外国語を理解し、外国語で表現する基礎的な能力を養い、外国語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てるとともに、言語や文化に対する関心を深め、国際理解の基礎を培う。

- ・ 改善の要点

- 国際化の進展に対応して、コミュニケーション能力を一層育成する。
- コミュニケーションを積極的に図ろうとする態度を育てる。
- 外国及び我が国の言語や文化に対する関心を深め、国際理解の基礎を培う。

- ・ 関係の文部省著作刊行物

学習指導要領解説書 『中学校指導書 外国語編』（平成元年7月）

中学校外国語指導資料

『英語を聞くことの指導—指導計画の作成と学習指導の工夫』（平成3年5月）

『コミュニケーションを目指した英語の指導と評価』（平成5年6月）

△平成元年 高等学校学習指導要領改訂

- ・ 改訂の要点

- ① 目標は、外国語を理解し表現する力を養い、外国語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てるとともに、言語や文化に対する関心を深め、国際理解を深めることとした。
- ② 生徒の能力・適性等に応じた指導が一層可能となるようにするため、科目の構成を改め、コ

コミュニケーション能力の一層の育成を図ることを基本として、総合的な英語力の育成に重点を置いた指導、聞くこと及び話すことの能力の育成に重点を置いた指導、読むことや書くことの能力の育成に重点を置いた指導など、多様なカリキュラム編成ができるようにした。

- ③ コミュニケーション能力を育成するための言語活動を一層活発にするために、科目により指定されていた言語材料を弾力化した。
- ④ 国際理解の基礎を培うため、教材選定の観点を改善し明確化した。

- ・ 科目の構成とその内容

- ① 「英語Ⅰ」…総合的英語力の育成を図る。
- ② 「英語Ⅱ」…総合的英語力の育成を更に図る。
- ③ 「オーラル・コミュニケーションA」…聞くこと及び話すことの能力の育成を図る。
- ④ 「オーラル・コミュニケーションB」…主として聞くことの能力の育成を図る。
- ⑤ 「オーラル・コミュニケーションC」…主として話すことの能力の育成を図る。
- ⑥ 「リーディング」…実践的な読解能力の充実を図る。
- ⑦ 「ライティング」…実践的作文力の充実を図る。

- ・ 外国語科の目標

外国語を理解し、外国語で表現する能力を養い、外国語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てるとともに、言語や文化に対する関心を深め、国際理解を深める。

- ・ 関係の文部省著作刊行物

学習指導要領解説書

『高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編』（平成元年12月）

高等学校外国語指導資料

『英語を聞くこと及び話すことの指導—指導計画の作成と学習指導の工夫』（平成4年5月）

△平成10年 中学校学習指導要領改訂

- ・ 改善の基本方針

- これからの国際社会に生きる日本人として、世界の人々と協調し、国際交流などを積極的に行っていくような資質・能力の基礎を養う観点から、外国語による実践的コミュニケーション能力の育成にかかわる指導を一層充実する。その際、外国語の学習を通して、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度と、視野を広げ異文化を理解し尊重する態度の育成を図る。
- 実践的コミュニケーション能力の育成を図るため、言語の実際の使用場面に配慮した指導の充実を図る。
- 国際化の進展に対応し、外国語を使って日常的な会話や簡単な情報の交換ができるような基礎的・実践的なコミュニケーション能力を身に付けることがどの生徒にも必要になってきているとの認識に立って、中学校の外国語科を必修とすることとする。その際、英語が国際的に広くコミュニケーションの手段として使われている実態などを踏まえ、英語を履修させることを原則とする。

- ・ 外国語科の目標とその改善の要点

外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうと

する態度の育成を図り、聞くことや話すことなどの実践的コミュニケーション能力の基礎を養う。

- ・ 改善の要点

- 外国語科の目標を実践的コミュニケーション能力の育成とし、コミュニケーション能力の基礎を養うことを一層重視した。

- 音声によるコミュニケーション能力の育成に重点を置いた。

- 英語の目標については、各学年ごとに示すのではなく、より弾力的な指導ができるよう3年間を通した目標を示した。

- ・ 関係の文部省著作刊行物

学習指導要領解説書

『中学校学習指要領（平成10年12月）解説—外国語編—』（平成11年9月）

△平成11年 高等学校学習指導要領改訂

- ・ 外国語科の目標

外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、情報や相手の意向などを理解したり自分の考えなどを表現したりする実践的コミュニケーション能力を養う。

- ・ 科目の構成とその目標

- ①「オーラル・コミュニケーションⅠ」

日常生活の身近な話題について、英語を聞いたり話したりして、情報や考えなどを理解し、伝える基礎的な能力を養うとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。

- ②「オーラル・コミュニケーションⅡ」

幅広い話題について、情報や考えなどを整理して英語で発表したり、話し合ったりする能力を伸ばすとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。

- ③「英語Ⅰ」

日常的な話題について、聞いたことや読んだことを理解し、情報や考えなどを英語で話したり書いたりして伝える基礎的な能力を養うとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。

- ④「英語Ⅱ」

幅広い話題について、聞いたことや学んだことを理解し、情報や考えなどを英語で話したり書いたりして伝える能力を更に伸ばすとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。

- ⑤「リーディング」

英語を読んで、情報や書き手の意向などを理解する能力を更に伸ばすとともに、この能力を活用して積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。

- ⑥「ライティング」

情報や考えなどを、場面や目的に応じて英語で書く能力を更に伸ばすとともに、この能力を活用して積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。

2. JETプログラム

△ MEF と BETS

1977年 都道府県教育委員会外国語（英語）指導主事付き助手として MEF（The Monbusho English Fellow）制度により、アメリカより9名を招致。

1978年 中・高英語教育の英語指導助手として BETS（The British English Teachers Scheme）制度により、イギリスより20名を招致。

1986年 この年まで MEF 制度、BETS 制度を継続。この年、MEF によるアメリカ人助手は235名、BETS によるイギリス人助手は72名。

△ JET Program

1987年 MEF 制度と BETS 制度を統合して JET プログラム（「語学指導等など行う外国青年招致事業」：The Japan Exchange and Teaching Program）発足。文部省単独の制度を文部省・外務省・自治省による制度に転換。この年、アメリカ、イギリス、オーストラリア、ニュージーランドより英語指導助手813名を招致。別に各都道府県国際交流課付き国際交流員（CIR: Coordinators for International Relations）35名を招致。

1988年 JET Program 対象国にカナダ、アイルランドを加える。この年の招致英語指導助手数は、1,384名。

1989年 JET Program 対象国にフランス、西ドイツを加える。英語指導助手の名称を外国語指導助手に改める。

1992年 招致国を拡大し、平成8（1996）年度は25カ国から5,351名を招致、うち外国語指導助手は、アメリカ、イギリス、オーストラリア、ニュージーランド、カナダ、アイルランド、フランス、ドイツ、南アフリカ共和国から4,831名を招致。

△関連の文部省著作刊行物

1990年 『英語指導助手等活用のための手引』（平成2年12月）

1994年 Handbook for Team-Teaching.（平成6年4月）

3. 小学校英語教育導入をめぐる動き

△文部省による早期英語教育実施の検討

- ・ 研究開発学校の指定（注：1度の指定で3年間研究開発を継続）
 - 平成4年度：大阪市立味原・真田山小学校および市立高津中学校
 - 平成5年度：鹿児島大学附属小学校（注：例外的に2度指定を受ける）、
千葉県東金市立鴛嶺小学校
 - 平成6年度：全国で12校指定
 - 平成8年度：各都道府県に1校ずつ研究開発学校を指定
 - 平成11年度：研究開発指定の終了

△日教組の動き

- ・ 日教組委員長（大場昭）の発言（注：ただし、個人的見解）
 - 「小学校の早い段階から生活言語としての英語教育を」

△中央教育審議会答申

- ・ 平成8年7月19日 「21世紀を展望したわが国の教育の在り方について」
—第15期中央教育審議会第一次答申—

第3部 国際化、情報化、科学技術の発展等社会の変化に対応する教育の在り方

第2章 国際化と教育

- ① 国際化と教育<略>
- ② 国際理解教育の充実<略>
- ③ 外国語教育の改善

(中学校・高等学校における外国語教育の改善) <略>

(小学校における外国語教育の扱い)

小学校段階において、外国語教育にどのように取り組むかは非常に重要な検討課題である。

本審議会においても、研究開発学校での研究成果などを参考にし、また専門家からのヒアリングを行うなどして、種々検討をおこなった。その結果、小学校における外国語教育については、教科として一律に実施する方法は採らないが、国際理解教育の一環として、「総合的な学習の時間」を活用したり、特別活動などの時間において、学校や地域の実態等に応じて、子供たちに外国語、例えば英会話に触れる機会や、外国の生活・文化などに慣れ親しむ機会を持たせることができるようにすることが適当であると考えた。

小学校段階から外国語教育を教科として一律に実施することについては、外国語の発音を身に付ける点において、また中学校以後の外国語教育の効果を高める点などにおいて、メリットがあるものの、小学校の児童の学習負担の増大の問題、小学校段階では国語の能力の育成が重要であり、外国語教育については中学校意向の改善で対応することが大切と考えたことなどから、上記の結論に至ったところである。

小学校において、子供たちに外国語や外国の生活・文化などに慣れ親しむ活動を行うに当たっては、ネイティブ・スピーカーや地域における海外生活経験者などの活用を図ることが望まれる。また、こうした活動で大切なことは、ネイティブ・スピーカー等との触れ合いを通じて、子供たちが異なった言語や文化などに興味や関心を持つということであり、例えば、文法や単語の知識等を教え込むような方法は避けるよう留意する必要があると考える。

さらに、各学校でのこうした教育活動を推進するため、研究開発学校における研究などにより、活動のあり方、指導方法などの研究開発を進めてゆくことも必要である。

△ 教育課程審議会答申

- ・ 平成10年7月29日「幼稚園、小学校、中学校、高等学校、盲学校、聾学校、及び養護学校の教育課程の基準の改善について」

I 教育課程の基準の改善の方針

1. 教育課程の基準の改善の基本的考え方<略>

- (1)教育課程の基準の改善に当たっての基本的考え方<略>
- (2)教育課程の基準の改善のねらい<略>
- (3)各学校段階・各教科等を通じる主な課題に関する基本的考え方<略>
(道徳教育) <略>
(国際化への対応)

イ 国際化が急速に進展する中で、国際社会に生きる日本人の育成という視点に立った教育の展開は、今後一層重要なものとなってくる。国際化の進展に対応した教育は、広い視野をもって異文化を理解し、異なる文化や習慣をもった人々と偏見をもたずに自然に交流し共に生きていくための資質や能力の育成を図ることをねらいとするものであるが、そのためには、我々はまず我が国の歴史や文化・伝統に対する誇りや愛情と理解を培う教育が重要であると考ええる。

現在、国際化の進展に対応する教育は、社会科、地理歴史化、外国語科を中心に各教科、道徳、特別活動の特質等に応じて行うこととされているが、各教科等に加え、「総合的な学習の時間」においてもこのような視点に立った教育の充実を図っていくことが必要である。なお、今後、国際化の進展に対応した教育を進めるに当たっては、これまでとかく欧米先進諸国に目を向けがちであったことを改め、アジア諸国等に一層目を向けるよう留意することが大切であると考ええる。

また、外国語教育については、自分の考えや意思を適切に表現できる基礎的・実践的コミュニケーション能力の育成を一層重視しつつ、中学校および高等学校において外国語を必修とするなどの改善を図る必要があると考ええる。

また、小学校における外国語の取扱いとしては、各学校の実態等に応じ、「総合的な学習の時間」や特別活動などの時間において、国際理解教育の一環として、児童が外国語に触れたり、外国の生活や文化などに慣れ親しんだりするなど小学校段階にふさわしい体験的な学習活動が行われるようにする必要があると考ええる。

2. 各学校段階等を通じる教育課程の編成及び授業時数等の枠組み

(1)教育課程の編成

(2)「総合的な学習の時間」

ア 「総合的な学習の時間」の創設の趣旨<略>

イ 「総合的な学習の時間」のねらいや学習活動について<略>

(ア) 「総合的な学習の時間」のねらいは、・・・<略>

(イ) 「総合的な学習の時間」の教育課程上の位置付けは、・・・<略>

(ウ) 「総合的な学習の時間」の学習活動は、・・・

(エ) なお、具体的な学習活動として、小学校において、国際理解教育の一環としての外国語会話等が行われるときには、各学校の実態等に応じ、児童が外国語に触れたり、外国の生活や文化などに慣れ親しんだりするなど小学校段階にふさわしい体験的な学習活動が行われるようにすることが望ましい。・・・

(オ) 「総合的な学習の時間」の授業時数等については、・・・<略>

(カ) 「総合的な学習の時間」の評価については、・・・<略>

△小学校学習指導要領改訂

- 平成10年12月 文部省告示「小学校学習指導要領」

「総合的な学習の時間」の創設

授業時数（1単位時間は45分）

	総合的な学習の時間の授業時数	総授業時数
第1学年		782
第2学年		840
第3学年	105	910
第4学年	105	945
第5学年	110	945
第6学年	110	945

・ 「第1章 総則」の中の規定

第3 総合的な学習の時間の取り扱い

1～4 <略>

5 総合的な学習の時間の学習活動を行うに当たっては、次の事項に配慮するものとする。

(1) <略>

(2) <略>

(3) 国際理解に関する学習の一環としての外国語会話等を行うときは、学校の実態等に応じ、児童が外国語に触れたり、外国の生活や文化などに慣れ親しんだりするなど小学校段階にふさわしい体験的な学習が行われるようにすること。<以下略>

[本参考資料は、香川大学教育学部助教授 竹中 龍範氏（英語教育）のご提供による。この場を借りて厚く感謝を申し上げる。]

あとがき：この論文は、永尾と瀧川が何回も協議し、全体のコンセプトを作った。その後、執筆分担については、「はじめに」、「1」、「2」を瀧川が受け持ち、「3」と「4」を永尾が受け持って書いた。